

**滋賀県 S.T. さん** (音楽教育 専攻)

**1) はじめに**

私は大学入学当初、「教師になりたい」と強く希望していませんでしたが、教師として働き始めた先輩や実習先の先生方を見て、教師という仕事に魅力を感じるようになりました。実習やスクールサポーター活動を通して、子どもと生活や学びを共にする楽しさを感じ、仕事として、この先もずっと教育現場に関わっていきたいと思い、教員採用試験を受けることを決めました。

**2) 地域・校種・職種などの選択について**

私は滋賀県で育ったので、他府県で働くことはあまり考えられず、採用の併願は考えませんでした。「受験の緊張感に慣れる」という意味では他府県採用との併願もよいかと思いますが、地域によって受験内容や時期が異なり、その分、自分が準備しなければいけないことも増えるので、複数自治体の教採を受ける場合は早い時期から日程や受験内容を確認しておく必要があります。

私は小学校の免許だけでなく、特別支援学校や中学校・高校音楽の免許も取得しましたが、それぞれの実習の中で、小学校教師としての事々に一番やりがいを感じられたので、小学校の教師を志望しました。

**3) 試験までのこと**

私は勉強のスタートは早いほうが良いと思い、3回生の夏に参考書を買いましたが、あまり真剣に取り組むことができませんでした。4回生の春休みに入ってから部活動やアルバイトなど忙しく、勉強のためのまとまった時間は取れませんでした。何かの待ち時間や電車に乗っている間などに、友達と少しずつ参考書を読んだり、暗記したことを確認しあたりしました。正直なところ、4回生になってから本気で勉強して合格していた人もいます。しかし試験勉強の内容には、幅広く取り組まなければなりません。早い時期から取り組むことで試験直前でも精神的に余裕を持って取り組めるので、私自身は早くからの対策をおすすめします。

4月に入ってから学内推薦の準備、母校実習等で教採の勉強に集中できる時間も少なく、焦りもあったので、自分で決め、大学に来た日は必ず21時まで勉強するようにしていました。

学内推薦は、本人の出願後、大学でのそれまで成績である程度絞られた後、面接によって選ばれます。私はあまりこの時期に面接の対策が出来ておらず、結果として学内推薦は貰えませんでした。もちろん推薦なしでも合格している人はたくさんいます。しかし推薦があれば教職教養と一般教養が免除され、それらが満点扱いになるので、よりほかの科目準備に集中して取り組めます。

#### 4) 一次試験について

滋賀県教採の一次試験は、筆記試験が7月7日、面接が7月14、15日に行われる予定でしたが、西日本豪雨の影響で次の日程で行われました。また、筆記試験当日も、台風の影響で午前からだった試験の時間が、午後からになりました。

##### 2018年 一次試験（滋賀県小学校の場合）

7月14、15日 面接試験（集団面接、集団討論、意見発表）

7月29日 筆記試験（小論文、一般教養・教職教養、小学校全科）

【一般教養】に関しては、出題範囲が非常に広く、自分がこれまで勉強してきた知識が生かせることや、小学校全科と範囲が重なることから特別に対策はしませんでした。【教職教養】に関しては、「暗記してその範囲の問題を解く」ということを繰り返し、記憶の定着を図りました。

【小学校全科】に関しては、学習指導要領と各教科の知識を問う問題が半々くらいで構成されています。学習指導要領は、とにかく何度も音読して頭に叩き込みました。各教科の知識を問う問題では、今まで習ったことある分野であっても忘れていた部分も多く、参考書を読んでも理解できない場合は、中高生向けの無料の動画などを見て理解し、記憶に残るようにしていました。

小論文は、私の場合、はじめは「どのように書き出したらいいのかわからず困る」というところから始まりましたが、「教職実践論」の授業を通して、文章のまとめ方、小論文に必要な知識、自分の書き方などを身に付けました。滋賀県教採では35分という短い時間で600文字書ききる力が必要になります。過去問などを使って、予想外な課題や、自分のいつもの構成に当てはめられない課題が出たことを想定し、何度も時間を測りながら練習しました。

面接に関しても、「教職実践論」の授業で基本的なことを学び、練習を繰り返しました。実践論の班のメンバーだけでなく、同じ滋賀県の小学校を受験する友達と集まって、お互いにアドバイスをしながら練習しました。人から言われることを聞くだけでなく、練習するときはいつも録音したり、動画を撮ってもらって表情を確認したり、自分で客観的に見直すことで徐々に良くなってきたと思います。

#### 5) 二次試験について

一次試験の日程が遅れたことで、一次試験の結果が出たのが8月10日になり、結果が出てから二次試験まで、あまり時間がありませんでした。

##### 2018年 二次試験までのスケジュール（滋賀県小学校の場合）

8月10日 一次試験 結果発表

8月20日 水泳実技

8月21～29日の内1日（受験番号順に日程が割り振られていました）

音楽実技、特別活動、個人面接、模擬授業

## 水泳実技

試験内容は、50メートルを泳ぎ切れればよいというものです。一次試験が終わってから練習を始めましたが、泳ぐのは得意ではなかったので水泳の得意な友達とプールに行き、教えてもらい練習しました。水泳実技の本番までプールで練習したのは2回だけでしたが、気分転換にもなるので、水泳が苦手、体力に自信がない人は早いうちから泳ぐ練習をしても良いと思います。

## 音楽実技

音楽実技には、歌唱、リコーダー、ピアノがあります。一次試験が終わってからそれぞれの課題曲が発表されます。ピアノの課題は自分に合った難易度の曲を選ぶことができます。面接の練習の合間に歌ったりリコーダーを吹いたり、みんなで練習していました。

## 模擬授業

模擬授業はあらかじめ自分で教科を選び、当日くじで引いた単元を10分で指導案を考え、9分間で授業の一部をするというものです。過去問は県庁でコピーすることができ、過去問と同じものが出題されることもあります。同じ教科を選んだ人で集まり、過去問を中心に指導案を考え、授業を見せ合いました。授業の内容も大切ですが、教師としての立ち居振る舞いや態度に関しても見られます。

## 個人面接

個人面接は二次試験の6割の配点を占めます。一つのことについて掘り下げて聞かれることも多いです。個人面接なので、質問されてから答えを考える時間ありません。一次試験以上に「自分の伝えたいこと」をあらかじめ整理しておく必要があります。「面接官が怖い」と感じてしまうこともあります。面接官はあくまで「この人なら教師として働いてほしいか」ということを見ていると思います。客観的に見て、「この人と働きたい」と思ってもらえるような言動を心掛けました。

## 6) さいごに

試験期間中は、受かった後のこともたくさん考えましたが、「落ちたらどうしよう」と、急に不安になることが多くありました。大学の勉強と両立させながら準備しなければならないこともたくさんあり、しんどいと感じることもありました。しかし、実習中にお世話になった先生方のことを思い出し、「こんなことでしんどいと言っているのは、試験に受かっても教師の仕事は務まらない」と何度も自分に言い聞かせることで、乗り越えることができたと思います。

そして一緒に試験を仲間の存在の大切さも感じました。面接の練習をするだけでなく、お互いに得意な分野は教え合ったり、一緒に勉強することで集中力を高め合ったり、試験に関して不安なことを相談したりと、仲間の存在なしでは合格はなかったと思います。

試験が近づけばもちろん、試験対策が中心になると思います。しかし、試験まで時間がある場合は勉強ばかりでなく、教育との関係の有無に関わらず、色々な経験を積んでおくことも大切だと感じました。面接のネタを作るということもありますが、それ以外にも試験期間の様々な部分で、そして教師になってからも生きてくると思います。

この体験記を読んでもくださった皆さんが、合格されて素敵な教師になられることを心から願っています。最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

## 合格体験記 【中学校（家庭科）】

滋賀県 R.N. さん （家庭科教育 専攻）

### 1) はじめに

---

私は滋賀県で中学校の教員になりたいと思い、滋賀大学に入学しました。しかし大学生になると、様々な情報が耳に入り、不安に思ったり、他の仕事に興味を持ったりするようになり、一般企業に就職しようとも考えることもありました。そんな時に、教育実習で「教職の魅力」というものを再確認しました。そこで、やはり中学校の教員になりたいと思い、教員採用試験を受けることを決めました。その結果、採用していただき、4月から滋賀県で中学校の教員として働くことになりました。

この文を通し、私の経験が少しでも皆さんの役に立つことができれば幸いです。

### 2) 地域・校種・職種などの選択について

---

#### ○ 地域

私は滋賀県で生まれ育ったということもあり、迷わず滋賀県での採用を志望しました。

#### ○ 教科

自分が好きな教科であるということはもちろん、家庭科は人の生活において、一番必要な知識や技術などを学ぶ教科であると思います。それらを知り、活かして生活することで生徒がよりよい生活を送れるようになって欲しい、そのための教育に携わりたいという思いから家庭科を志望しました。

#### ○ 校種

私自身の中学校での経験が、校種選択にとっても大きく関わっています。教員を目指すきっかけをくれた恩師との出会いから、私も恩師のように「生徒の成長を支えられるようになりたい」と思うようになりました。また、教育実習や教師塾における学校実地体験での経験からよりその思いが強くなり中学校教員を志望しました。しかし、家庭科は年によって採用枠が0で、採用試験自体行われないこともあります。その場合には違う校種で受けようと考えていました。

### 3) 試験までのこと

---

私は4回生の5月まで部活をしていたということもあり、本格的に教採の勉強を始めたのは引退したあとからで、それまでは空いた時間に参考書を見るくらいでした。本格的に勉強を始めた5月には、大学推薦の選考がありました。準備をしていない自分が悪いのですが、ほとんど進められていない教採と学内推薦の選考の準備を同時に猛スピードで進めなければならず、本当にしんどかったです。行きたい進路が決まったら、早め早めに行動することをおすすめします。

勉強に関してですが、私は一人家でコツコツできるタイプではないので平日は毎日朝から学校で同じ専攻の友だちと勉強して、夕方には教員を目指す地元の友だちと一緒にファミレスで日付が変わるまで勉強していました。今までにもこれからも、こんなに勉強することはないってくらいにはしたと思います。どのように勉強、教採の準備を進めてきたのかについて以下に書いていきます。

## ○ 筆記試験

私はありがたいことに大学推薦をいただくことができたので、教採にあたっては専門分野と小論文の2つに時間をかけることができました。専門分野は、基本的な勉強方法として、ノートに問題を解くことで、3つの問題集を何十周もするようにして覚えました。

小論文は1日に1題は必ずする、と決めてやりました。はじめは一つ書くのに2時間くらいかかったこともあります。試験前には20分ほどで書けるようになりました。数をこなして型を作っていくようにしました。

## ○ 集団討論

集団討論も、数をこなすことが試験本番の取り組み方につながると思います。練習に当たり、討論課題は大学配布の「部外秘」冊子から出しあって行いました。はじめのうちは、話の流れやほかの人の発言でいいなと思ったものをノートにメモを取りながら討論をし、慣れてきてから本番と同じようにメモを取らずにするようにしました。討論に関しては、同じ人とばかり練習すると、慣れてきて確かにやりやすいのですが、その形を続けていると同じ内容や流れになってしまいがちです。そのため、同じ校種や教科を志望する人に限らず、様々な人と討論の練習をすることをおすすめします。各校種や目指す教科によって、違った視点から考えることができます。また、たくさんの人と討論すればするほど、「いいな」と思う発言もあり、自分の考えを広げることができます。

## ○ 集団面接

集団面接も「慣れる」ことが一番です。試験本番においても、基本はほぼ「部外秘」冊子にあることからしか聞かれませんが、そのため、私は面接対策用のノートを作り、大まかに答えを作っておきました。そして繰り返し練習するに限ります。ノートに書くことで自分の考えがまとめやすく、練習の中で「こっちの方がいいかも」と思ったものに書き換えることで、内容をブラッシュアップさせていくことができます。

1分間スピーチは、1分間まるまる使って自分をアピールできるように、時間を測って何度も練習しました。最初は恥ずかしいかもしれませんが、人に聞いてもらうことでよりよいものにしていきますし、話すことにも慣れます。また、友達だけでなく、教員になった先輩に聞いてもらうことも、よいアドバイスをもらえるのでおすすめです。

面接練習については、やる方がもちろん良いですが、これにはあまり時間がさけないということもあります。そのため私は、専門の勉強に集中できなくなった時などに、気分転換として面接練習をするなどしていました。

いろいろ書いてきましたが、ずっと勉強だけをし続けることはできません。適度に教採に関係のない話をしたり、場所を変えたり、気分転換を**する**ことも大事です。私の場合、ファミレスで行っていた地元の友達との勉強が、かなり良い気分転換となっていたので、そのおかげで教採のための準備を続けることができました。メリハリをつけて頑張ってください。

#### 4) 1次試験本番

---

##### ○ 面接試験

日時：平成 30 年 7 月 14 日、15 日（どちらか一日のみ）

会場：東大津高校

##### ○ 筆記試験

日時：平成 30 年 7 月 29 日

会場：立命館大学

今年度は台風の影響により筆記試験が 2 週間延期になったため、このような日程となりました。毎年筆記試験の方が先に終わります。台風による延期で「あと 2 週間勉強し続けなければならない」と心が折れそうになりましたが、切り替えの速さも大事です。

##### ○ 面接試験

試験当日は季節的にも暑くて、待ち時間がやたらと長いです。時間に余裕を持っていくべきですが、あまり早くいくことはおすすめしません。待ち時間の間は面接ノートなど見直すことができるので、持って行った方が良いです。

集団面接（討論）は 6～9 人程度で行われ、基本的には同じ校種・教科の人と同じグループですが、同じグループになるはずの人が当日にほとんど来ないなどの事態が起きると、急遽ほかのグループに加えられることもあります。今年度、私が参加したグループには、現役大学生より現在教壇に立っている講師という立場の人の方が多かったです。ほかの受験者にも話を聞きましたが、ほとんどのグループで、講師の方が多いようでした。また、討論の中では突っかかってきたり、討論の題からかなりそれたことを話す人がいたりします。やはり練習とは違って驚くこともありますが、落ち着いて対応していくことが大切です。

面接会場では机が一行に並べられ、前方に 3 人の面接官が座っています。それに加えて、時計係の人が 1 人います。討論の時間はもちろん、1 分間スピーチの所要時間も計っています。あまり長くしゃべると時計をバンバン叩かれます。1 分間スピーチに限らず、自分が発言するときは 1 分を超えた時点で早めにまとめましょう。

## 5) 2次試験までのこと

---

本年度は台風で筆記試験が延期になった影響から、1次試験の合格発表も遅くなりました。合格発表を待ってから2次試験の準備に取り掛かっている間に合いません。1次試験が終わったその日や次の日くらいはある程度休んでも大丈夫だと思いますが、早めに2次試験にむけて気持ちを切り替えることが大事です。

合格発表の3日後くらいに、2次試験の日程を知らせる通知が届きます。中学校採用を志望する人は、2次試験の日程が早めであることが多いです。私は通知が届いた日の4日後が試験日でした。

中学校家庭科の2次試験では、実技、個人面接、指導実技（模擬授業）があります。実技については「調理実習」、「被服実習」のどちらもあることが多いです。教科書に載っているものは一通り作れるようにしておくで安心です。しかし、『新学習指導要領』などからの出題もあるため、教科書に載っていないことも本番で求められる可能性もあります。とりあえず基礎は押さえておきましょう。

個人面接については「部外秘」冊子に書かれている題材から、答えを一通り考えておくで安心です。1次試験の集団面接とは違い、細かく聞かれたりします。答え方としては、短く自分が思うことを自分の言葉で素直に言う方がいいのではないかと思います。

「指導実技」については、過去問はもちろん、教科書で扱われているすべての範囲を押さえておきましょう。『学習指導要領解説』の指導内容で太文字になっているところなどは問題となりやすいです。指導実技は10分で、という指定ですが、1時間分の展開として作っておく方が見通しが立てやすいので、できるだけ1時間分として作るようにするのがベストです。

「指導実技」に関しては、練習あるのみです。本番では教具やICTなどは「使ったふり」をしなければいけないので、それに合わせた板書などをできるようにしておきましょう。そして「10分で大体ここまでできる」という感覚を身につけておけば、当日の緊張もかなり少ないです。私の場合同じ校種・教科の人がいないこともあり、一人で全部の授業を考えなければならなかったのが、2次試験対策に使った時間としては、「指導実技」のためが一番多かったです。同じ校種・教科の人がいれば分担して作ってもいいと思いますが、できれば自分で作った方が流れを覚えているし、やりやすいと思います。

## 6) 2次試験本番

---

日時：平成30年8月17日

会場：大宝東小学校

先ほども書きましたが、中学校家庭科の場合、2次試験の内容が「実技」、「個人面接」、「指導実技」です。この3つを一日かけてします。そのため1次試験以上に待ち時間が長いです。ほかの教科の人が後から来るのに先に帰っていきます。1日じゅうずっと気を張り詰めなければいけなくて、しんどいです。

9時ごろに2次試験の全体説明を受けた後、1時間くらい待機し、10時頃から実技試験が始まりました。先に被服実習をした後に調理実習をしました。実技試験のときの席は自由でした。このとき「廊下側の席」に座ることをおすすめします。窓側の席では、風の影響でガスコンロがつかないというハプニ

ングがありました。そういった場合は試験官に伝えるとすぐに対応してくれるので早めに言いましょう。

終わった人から待合室に帰れます。現在講師として勤務している人はさすがに手際が良く、さっさと帰ってしまって不安になりますが、急がずにやるべきことをして、使ったところはきれいにしておくといいと思います。そしてここで大事なのは「切り替え」です。私は実技試験で大きな失敗をしてしまいました。当日出されたのは「ファイルケースを作る」という課題だったのですが、私は焦って縫い代を少なくとってしまい、出来上がったケースはファイルが入りきらないサイズになっていました。その慌てた気持ちを少し引きずりましたが、「ここまで来たらやるしかない」と開き直りました。

何度も言いますが、切り替えが大事です。

実技試験が終わると昼食をとり、そのあと個人面接があります。

個人面接では個人面接待機場場にグループで行き、その部屋でバウムテストをして面接を待ちます。面接では、提出した面接カードから聞かれます。答えた内容に対して面接者から「具体的には」、「他には」など、掘り下げて質問されます。自分が面接カードに書いたことには、具体的に他にどのようなものがあるかなどについても考えておいたり、深く聞かれたくないことについては書かないでおいたりする必要があります。

面接が終われば、すぐに指導実技でした。指導実技試験待機場場に行き、説明を聞いたのちに別室に移り、指導内容のくじを引きます。そのあと用紙に指導案を書きます。そして、試験会場に行き、模擬授業を行います。模擬授業が終われば試験はすべて終了となります。

第一志望が中学校の場合、第二志望で小学校を併願することができます。その場合、別日または試験後にプールの試験があります。

## 7) さいごに

---

最後まで読んでいただきありがとうございます。

教員採用試験を受けるにあたり、たくさんの人に支えられやり切ることができました。大学の先生やこれまでお世話になった中学校や高校の先生、先輩や友達、家族には感謝してもしきれないです。教採に限らずまわりの人に支えられていることも多いです。周りの人への感謝や、大切にしている気持ちがこれからもつながると思いますのでこれを読んだ後輩には周りの人を大切にしてほしいと思います。

また、今回書いているのは「就職体験記」ということで「将来に向けた準備は大切だし早くすべき」としてありますが、部活やサークル、そして友達と遊ぶことも、もちろん大切です。「今しかできないことを全力でする」ということは、これからの人生に生きてくるものだと思います。その経験を活かして、教採合格をつかんでください!!!

## 合格体験記 【高校（英語）】

滋賀県 Y.W. さん （英語教育 専攻）

### 【はじめに】

僕は、中学校の卒アルに将来の夢を「プチ金持ち」と書くくらい、自分の将来について何も考えていませんでした。そして、高3で真剣に受験校を決めなければならなくなってきたときに、それまで友達に「教えて」と頼まれることが多く、僕自身もそれを教えることが楽しかった点と、公務員（安定するかもという下心）であるという点から、教員という道を目指し始めました。

今回は、そんな計画性ゼロの僕が教員として合格するまでどのようなことをしてきたのか、できるだけ具体的に書いていきたいと思います。これから受験するみなさんの参考になれば幸いです。

### 【学生生活】

僕は、大学において部活動に所属せず、とにかくバイトをして過ごしていました。自分の専攻が英語ということもあり、留学や海外旅行に行きましたが、特にそれが面接等で有利にはならず、部活をしていないことも、またそれが不利になったとは感じませんでした。

教育実習は地域の中学校にお世話になり、4回生では母校実習に行きました。また、滋賀の教師塾にも通い、主にこれらの経験が後の面接試験で大活躍だったので、体験したこと、そこで感じたことをどこかに書いておくと、とても皆さんにも役立つと思います。

### 【1次試験にむけて】

#### ・教養試験

---

僕は、3回生の11月頃から、教職教養・一般教養の参考書を買いはじめたのですが、「買う」ということに満足してしまい、本格的な勉強は4回生になってから始めました。僕が勉強への取り組みができなかった理由としては、内容が重めの参考書を最初のページからしっかりやろうと思ってしまったせいで、すぐに飽きてしまっていたからだと考えています。僕のように、きっちりした参考書を長い時間読むのが苦手だという人は、『教員採用試験 中高英語らくらくマスター』（実務教育出版）などの、楽に勉強内容を一周することができるものから始めることをおすすめします。また、僕が実際にやっていたよかったと思うのは、「前年の全国都道府県で出題された教採の問題」を載せている参考書です。その本の良さは、（1）丸付けができるので自分の成長を感じることができて楽しい。（2）よく出ているワードを自然に覚えることができる。ということです。この問題を解いた後に『らくらくマスター』を読むと、「あ、これはこの前でできたワードだ」「これはよくでるワードだから線を引いておこう」など、覚える効率が

何倍にも良くなると感じました。これは試験内容などとは全く関係ありませんが、全国地図を印刷しておき、その地方の教採出題を解いては「8割以上とれたら青」、「5割以下だったら緑」など、得点率に応じて色を塗っていました。北の方からはじめ、九州地方に向かっていくにつれて青が増えるのを見て自信をつけていました。

## ・専門試験

---

専門である英語に関する準備は、3年の春休みからコンスタントに続けることができました。滋賀県教採の英語の試験は、難易度はそこまで高くなく、他の県と比較しても、イディオムなどクセのある問題が出ることはほとんどありませんが、とにかく量が多いです。そこで僕は、試験の対策をするというよりは、大学入試レベルの文法を学び直し、最低でも一日一つは長文を読むようにしていました。そのおかげで、教採出願のギリギリ時期で受けた、TOEIC で良い点を取ることができ、加点を手に入れました。様々な学校で現役の先生方から話を聞き、英語の試験での加点は、実際の数字以上の意味を持つと感じましたし、僕自身もそう感じました。英語での採用を受ける皆さんはぜひ英語の試験で「加点」を狙ってください。

## ・小論文

---

小論文に関しては、大学授業の「教職実践論」をしっかり受けていれば問題ないと思います。もらった資料の問題ひとつに対して、「自分だったらどう書くか」をそれぞれ3つ程度、ノートにまとめておくと、集団討論の準備にも繋がります。僕は、小論文を実際に書く練習よりもノートを用いて考えることに多く時間を使いました。

## ・集団面接・討論

---

集団面接・討論も、大学の部外秘冊子を見て、一つ一つの問題に対して自分だったらどう答えるか、ノートにまとめるようにしていました。僕は6月のはじめから2週間母校実習に行っていたので、集団面接、討論の練習はそれが終わってから始めました。できる限りいろいろな人と練習を行えば、短期間でも十分に対策できると思います。ただ、滋賀県教採においては受験者の「人柄」を特に重視していると思うので、1次試験2次試験ともに、面接の想定回答はしっかり時間をかけて用意しておいたほうが良いと思います。

高校の採用試験は、始めに1分間、自己PRをする時間があるので、ここは完璧に準備しておいてください。現職講師の方など、すでに経験を積まれている皆さんは、その場で考えて話していることが多いようです。現役受験生の僕たちは、むしろ綿密に準備をしておき、その結果を上手く発表できると、差をつけることができます。

僕が討論で意識していたのは、場の流れに乗ること、そしてできる限り目立たないことです。もちろんいい意味で存在感を示したり、討論を有意義に進められるように振る舞うことには意味がありますが、流れを壊すような行動や話題の提供、またマナー面で悪目立ちするのは、むしろマイナスだと考えます。例えば、一人で話しすぎたり、肘をついたりすることです。(実際に結構います) また、現職講師の方は現場での実践をメインに話をされますが、それに劣等感を感じる必要はありません。そこまでに出された話も活かしながら自分の考えを足していくようにすれば、突破できると思います。

## 【1次試験】

筆記試験に関しては特筆することはないので割愛します。

集団面接・討論は、僕の班は3人が欠席し、5人で行われました。初めに一分間の「自己PRタイム」があり、次に面接、討論の順番で行われました。中学校教採の集団面接では受験者が挙手した順に発表をしていたそうですが、高校教採の面接は端から順に指名されました。討論は挙手制ですが、多く話せばいいというわけではありません。班のメンバーの中で一次試験を突破したのは、むしろ周りを意識していた人でした。ちなみに僕は、討論中4回発表しました。

余談ですが、集団面接の中でされた1つの質問で、「SNSについて」の質問がありました。僕はちょうど前日に、友達の地元の高校生がSNSを使って復興支援の協力者を募っているという話を聞いていたので、それをそのまま使いました。このように、自分と直接には関係ないエピソードなども持っておくと、面接で使えることがあります。小論文や面接のアイデアを考えるときは、友達と一緒にやることをおすすめします。様々な話題や価値観を身につけることができますし、練習として、自分の発表を客観的に評価してもらうこともできます。

## 【2次試験までのこと】

1次の合格後、2次試験までは基本的にリラックスして毎日を過ごしていました。教育に関する様々な本を読んで、自分がどんな教員になりたいのか、どんな授業をしたいのかなどを考えていました。

### ・個人面接

準備していたことは1次試験と基本的には同じです。ノートに想定問題を書き、それにどう答えるかを考えていました。2次試験からは個人面接になり、自分が答えた内容に対して試験官から追加で質問をされるため、一つのことに対してより深く考えておかないといけません。そこで僕は、自分がどんな生徒を育てたいのかを繰り返し考え、「様々なことにチャレンジする生徒」を育てたいということを志望理由の中にも入れ、他の答えもこの考えを軸にすることを意識していました。

### ・模擬授業

模擬授業は、毎年同じパターンの問題がでます。文章の中に2つ文法事項が含まれてあり、そのどちらかを10分間で指導するというものです。文法指導ではありますが、授業はオールイングリッシュで行ってください。僕はまず、どの文法項目がきても使える流れ（口頭で導入 → 解説 → アクティビティ）を考え、それぞれの文法を学ぶのに適した導入、アクティビティをノートに書いておきました。僕は人前で実際に授業をする練習をほとんどしなかったため、模擬授業の点数が低かったのが事実です。後輩の皆さんは、積極的に皆で集まって練習しておくといいと思います。

模擬授業対策で僕が使っていたのは以下の2冊です。

- ・”English Grammar in Use” / Raymond Murphy (Cambridge University Press) ¥4,262

→ 文法が簡単な英語で説明されているので、そのまま授業内の解説として使うことができる。

- ・『英語で教える英文法 —— 場面で導入、活動で理解』 / 卯城 祐司 (研究社) ¥2,484

→ アクティビティが参考になる。

## 【2次試験】

### ・個人面接

---

面接官は3人でした。そのうちのお一人が前年度に「滋賀の教師塾」を担当されていた先生だったので、緊張が少しほぐれました。その日は台風で電車が止まっていたので、会場までどうやって来ましたか、などの質問があり、その後本格的な面接が始まりました。上でも書いたように、これまでの試験で自分が言ったことや、記入した面接カードの内容から掘り下げた質問がきました。面接が終わった後は正直ダメだと少し落ち込んでいたのですが、周りの話を聞いていても自信がある人はほとんどいませんでした。集団面接のときに比べると個人面接は、人と比べることなく自分のことを深く考えなくてはいけないため、その結果に自信を持ちづらいのだと思います。受験者みんなそう感じているのだと考えて、落ち込みを引きずらずに模擬授業に向け、気持ちを切り替えてください。

### ・模擬授業

---

別室で問題用紙を渡され、10分間準備した後、教室に移動しました。模擬授業を行う教室では、面接官が10人程度、室内にバラバラに座っており、生徒がいると仮定して授業を進めました。授業中は、とにかく楽しそうにすることと、全員とアイコンタクトを取ることを意識して行いました。10分という制限時間は想像以上に短く、導入 → 板書の途中で時間が切れ、アクティビティどころか文法の解説もできずに終わってしまいました。ここで僕は本当に落ち込んでしまったので、みなさんは普段の練習のときから、時間の使い方をしっかり意識してください。これは今年から導入された出題方法だったのですが、模擬授業に対する質問が英語で行われました。過去問では、個人面接の際に英語の質問がいくつかあったのですが、今年の個人面接では英語の質問がありませんでした。

## 【おわりに】

以上のようなことを通して、なんとか合格をいただくことができました。

僕は計画的になにかを進めたというわけではありません。しかし、「やれることは全部やる」という気持ちで、とにかく情報を集めた結果が合格に繋がったと考えています。例えば勉強中にモヤモヤすることがあれば、なににモヤモヤしているのかをジャポニカ学習帳に書きなぐり、何からすればいいかを考えました。不安なことなども、書くとなんとなく楽になります。周りにすごい人がいたりすると、とても不安になると思いますが、できることをこなしながら自分らしく過ごすのが一番です。

ここまで読んでくださり、ありがとうございました。みなさんと将来、一緒に働くことができることを楽しみにしながら、先に現場で揉まれてきます。

**I will keep my fingers crossed !**

## 合格体験記 【高校（数学）】

滋賀県 M.S. さん （数学教育 専攻）

### 【はじめに】

私は、今年度の教員採用試験（以下では「採用試験」と省略します）にて採用内定を頂戴しました。滋賀県と京都府の両府県から合格をいただき、来年度からは滋賀県の高校教員として働かせていただくことに致しております。縁あって、今この文章をお読みになっている方の多くは、これから採用試験の受験をお考えでしょうか。

私が今回、就職体験記を執筆するにあたって、過去の先輩方の就職体験記を拝読致しますと、採用試験への対策、特に勉強法等を事細かに述べられているものが多いように感じました。その内容と、私が採用試験の対策として行ってきた勉強法から大きく相違する点はなく、また私自身には「これは他人に誇れる」といった勉強法もありません。よって、以下のこの私の就職体験記においては、勉強法について踏み込んだ話は控えました。そのような内容を期待されてここまで読んで下さった方には申し訳ありませんが、私からは教員採用試験の対策や勉強法を書いて紹介するという以外の方法で、後輩の皆さんの目標達成の後押しをしたいという願いから、就職体験記という形で応援させていただきます。

### 【採用試験に挑むにあたって】

今年度の高校数学の合格倍率は滋賀県・京都府ともに約7倍でした。例年と大きく変わったわけではなく想定通りでした。いよいよ本格的に採用試験の対策を始めようという段階に差し掛かったとき、自分がこの倍率を勝ち抜くためには、どれほどの対策を立て、どのような手を打てばよいのかを自分なりに考えようと思いました。しかし、それはそのときでは分からず、今現在も自分が責任を持って他人に話せるところまでは理解できていないと感じます。しかし、これだけは確かであると考えています。

他の志願者よりも

- ①教員になりたいという強い気持ちを持つ
- ②より多くの努力をする
- ③より多くの時間で自分を見つめる

ことで合格は近づく

大学受験で思うような結果が得られなかった私は、この採用試験において、特に筆記試験等で問われる「学力」という点では自信は持てませんでした。7倍という倍率を考えれば、不合格になるということは考えたくなくても覚悟する必要があります。それに加えて、当時の自分の力では、一般企業などへの、いわゆる「就活」と採用試験対策を並行して行っている、採用試験の合格は難しいと感じていたため、就活はしないという、退路を断つ決断をすることにも覚悟が必要でした。しかし、私はこの「覚悟」こそ

が、自分を合格ラインまで引き上げてくれたのだと確信しています。今年度合格できなければ、来年はどうするか、来年度以降の採用試験でも一向に合格をもらえなかったらどうするか、を考えると不安になります。そのときには「それでも私は教師になりたい」という自分の気持ちが自分を救ってくれます。またこの気持ちは、今自分がすべきことを教えてくれます。そして、それが採用試験のためのあらゆる勉強を行うモチベーションまで与えてくれることになります。

採用試験の対策は精神的に辛いときもありましたが、「教師になりたいか」と自問自答し、自分を見つめた時間が、私には必要であったと振り返ります。自分を見つめることによって、今自分のすべきことが必然的に分かってきます。それによって自分の学習の効果が確実に上がると感じられる採用試験対策のスケジュールリングと、自分の時間の使い方の反省を冷静に行うことができます。具体的に申し上げますと、採用試験の試験科目は複数あり、また出題範囲も広いいため、自分の得意・不得意な分野をいかに把握するかが極めて重要であると私は考えました。筆記試験の対策で言えば、その日に解いた全ての問題の出題分野とその問題ごとの正誤を記録し、自分の知識の偏りを掴むよう努めました。ここに試験日までの残り日数と、自分の問題集の消化具合を踏まえ、採用試験を迎えるまでの大局が見えるようにすることで、自分の学力を客観的に評価するを行いました。

## 【採用試験の対策について】

---

私が採用試験の対策を行う上で、常に心掛けたことが1つあります。「今の自分の勉強は、試験本番で役に立つ力がつけられる勉強か」ということです。かけた時間が多くとも、良い結果となって返っては来ないことの方が、世の中には多く存在しているように思います。今自分が行っている対策の「実効性」をとことん考え、高めていくことが非常に重要です。

そのために、試験本番をリアルに想定することが必要です。「時間を計って過去問を解く」、「用紙サイズを調べて、同じサイズの用紙を用意して解く」、「受験した先輩のお話や過去の受験報告を見て試験の方式を理解しておく」、など、ここに挙げたのはかなり初歩的なことばかりかと思いますが、とても重要なことです。私は、「試験当日に力が発揮できず、悔しい思いをするのは、大学受験で最後にしなければならない」という気持ちで常に採用試験に対して取り組んできました。

合格をいただいた今となっては、2府県の各1次試験の筆記と面接、それから2次試験の合計6日間の採用試験日の全てを良い思い出として振り返ることができます。それができるのも、各試験当日の細部までを想像し、準備して会場に入ること、試験に冷静に挑むことができた結果ではないかと考えています。

## 【採用試験を振り返って】

---

「勝つためにできることは、もうないか？」

これは私の座右の銘の1つですが、採用試験の対策は、この言葉に尽きるのではないのでしょうか。この気概を持って試験対策に取り組み、自信を持って当日家を出るという程度にまで自分が努力を積み重ねないと、自分の場合は勝負にならない、くらいに思っていました。当日に試験会場で自分の精神状

態を分析している余裕まではありませんでしたが、今振り返ると、「上手くいかないかもしれない」という不安はもちろんあった一方、「上手くやってみせる」という自信もあったように思います。

試験当日の自信は、「その日を迎えるまでの自分の行動」が作ります。つまり採用試験の受験を考えている皆さんにとっては、まさに「今日の自分の行動」が本番での気持ちを左右することになる、ということ覚えておいて下さい。

学部生の方の多くは、同じく採用試験を受験する仲間にもまれた環境で対策を行うことができます。それが情報交換やモチベーション維持に繋がることは言うまでもなく、教育学部の大きな利点であると言えます。ところが、それにより私たちは、「採用を目指す相手全員が自分と同じ学年の大学生だけである」、と錯覚を起こしてしまいがちにもなります。しかし実際のところ試験当日の会場には、大学院に通われている志願者、現在講師として実際に学校で経験を積まれている志願者、他府県で現役の教員をされている志願者があり、また、大学推薦や昨年度までの試験結果などの措置によって一部の受験科目が免除されている志願者もいます。そういった様々な人と、試験官である教育委員会等の方々が出す会場の雰囲気の中で、自分の集中力が発揮できるメンタルも必要であったな、と振り返ります。

採用試験に対するあらゆる勉強を行う上で、常々そういった雰囲気を想像し、緊張感を持って取り組むことが非常に大切であるとお伝えしておきたいと思います。

## 【おわりに】

私が定期購読しておりました雑誌のあるコーナーにおいて、惜しくも合格を逃した受験生が自身を分析し、翌年見事合格されたという体験談が紹介されていました。そこには「合格する人は教師としての魅力を持っていると評価された人ですが、その魅力は様々です。しかし、合格に届かない人には、いくつかの共通点があるのです。」と書かれていました。これに共感を抱いた私は、あまり先輩の合格体験談などの内容は、あえて参考にしてこなかった学生でありました。しかし、そんな自分が就職体験記の執筆のご依頼をいただくこととなり、文章に起こす機会を得ましたことは、何かの縁であるかと感じます。

最後にお伝えしたいことは、「物事を前向きに考える姿勢は自分を成長させる」、ということです。私が滋賀大学の4年間で学んだことで最も大きなことの1つです。何かが上手くいかない、目標へのモチベーションが保てないと感じたときも、姿勢は前向きでありたいと私は考えています。

採用試験対策は、辛いことが多いですが、その道を選んだのは自分です。辛さを嘆くだけになっては、教師を志す自分にとってプラスになることは何ともありません。辛いときこそ前向きに自分をコントロールし、成長に繋げる人か、辛いことを避けることだけ考え、それが過ぎ去るのをただ下を向いてやり過ごす人か。私は常に前者を目指し続けてきました。

試験勉強はよく、登山に例えられるそうです。日差しが照りつけるときも、強風にあおられるときも、山頂に辿り着いたときの、そこから見える景色と達成感を心に描きながら、1歩ずつ自分の足で登るものだからです。これに対する少し違った私の見解をお伝えしてこの体験記を終えさせていただきます。

しかし採用試験は山ではありません。もしも採用試験が山なのであれば、合格すれば登頂ということになってしまいます。採用試験の受験は、自分の目指す教師像、実現したい教育像に向かって前進するための手段であるということを忘れてはなりません。例えるとすれば、この「山」とは「自分の人生」

を指すのではないかと考えています。では、「採用試験」とは何でしょうか。私は「坂」だと思います。大きな坂を目の前にして、辛く感じられますが、山頂に辿り着くためには避けて通れません。しかし、教師という山を登ると決意した志を今一度思い出し、長く、急傾斜に見えるこの坂を着実に登って行って下さい。

これをお読みいただいた方が、見事にこの坂を制覇されますことを、そして、その坂の上からこれまで見てきたのとは違う景色を目に映し、少し心のエネルギーを蓄えてから、山頂に向かってまた歩き出されますことを心よりお祈り致します。

**「この坂を登り切れ。」**

**滋賀県 Y.I. さん (障害児教育 専攻)**

**1) はじめに**

---

滋賀県の特別支援学校教員として採用していただきました。私は生まれも育ちも滋賀県なので、他府県の受験は考えず、滋賀県に絞って対策しました。試験の具体的な内容だけでなく、私がやってよかったと感じたことも失敗してしまったことも記しました。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

**2) 1次試験までのこと**

---

**【筆記試験について】**

・ **一般教養、教職教養**

**使用した参考書 類**

- |  |         |
|--|---------|
| ①一般教養 30日完成 (2019年度版 Pass Line 突破シリーズ) | 時事通信出版局 |
| ②教職教養 30日完成 (2019年度版 Pass Line 突破シリーズ) | 時事通信出版局 |
| ③滋賀県の教職・一般教養 過去問                       | 協同出版    |
| ④教員採用試験対策 セサミノート 1 教職教養                | 東京アカデミー |
| ⑤教員採用試験対策 問題集 1 教職教養                   | 東京アカデミー |
| ⑥学校教育の指針                               |         |

一般教養の勉強は、③で過去問を解くことを中心に行いました。そこまで複雑な問題は出されないの  
で、大学入試の際にセンター試験だけでなく2次試験まで受けた人や、アルバイトで塾講師をしている  
人などは苦手科目の対策をするくらいで良いと思います。①の参考書は他の科目の合間に解き、忘れて  
いる知識を覚え直すのに活用していました。①・②は薄く、頻出問題だけがまとめられているので、模  
試の直前に一通り解きなおすのに便利でした。

教職教養の勉強は、④と⑤の参考書を毎日の勉強に使っていました。④に答えをオレンジ色のペンで  
直接書き込み、参考書代わりにしました。④で暗記した単元を⑤で演習することで、覚えるだけで終わ  
らないようにしていました。また、滋賀県の教職教養には滋賀県がだしている⑥『学校教育』の指針か  
ら多く出題されるので、日ごろの隙間時間に読んで暗記しました。⑥にのっていることは筆記試験だけ  
でなく、面接等にも必須なのでよく読みこむことをお勧めします。

## ・専門科目

### 使用した参考書類

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| ①教員採用試験対策 特別支援教育       | 東京アカデミー |
| ②滋賀県の特別支援学校教諭 過去問      | 協同出版    |
| ③教員採用試験 特別支援学校らくらくマスター | 資格試験研究会 |
| ④特別支援学校学習指導要領解説        |         |

①の参考書は7つの分野と実践問題に分かれていたので、毎日1分野ずつ解くことを試験本番まで続けました。何周かすると問題と答えを覚えてしまうので、選択肢のある問題の選択肢を隠し、間違えずに書けるようにするなど工夫していました。5月からは②の「過去問」を毎日1年分ずつ解き、間違えたところをノートにまとめていきました。③はいつも持ち歩いて、暇があれば読んでいました。④は改訂前と後でどこが違うのかを意識して一通り読み、①や②によく出題されているところを覚えました。また、私は専門科目で満点を狙いたかったので①に②・③・④に載っていることやインターネットで調べたことを書き込んでいきました。付箋やメモで2倍くらいの厚さになりかさばりましたが、ちゃんと結果につながったのでおすすめの勉強法です。

## ・小論文

小論文は、大学の教職実践論の先生とゼミの先生に添削、指導していただきました。添削していただいた後、もう一度同じテーマで書き直し、また添削、指導していただくことを繰り返しました。私の小論文は個性が出ず、おもしろくない内容になりがちだったので、人が読んだ時に印象に残りやすい体験等を混ぜて書けるよう意識しました。どんなテーマが出題されても自分の得意、書きやすい内容につながられるように練習しておくとういと思っています。

### 【集団討論】

#### ・自己PR（受験番号を含めて1分間）

自己PRはゼミの先生に添削していただきました。1分間は意外と短いので、自分の長所をいくつもアピールするのではなく、絶対にアピールしたいこと1、2個に絞り、それを裏付けるエピソードと一緒に話すと言説力が増すと思います。試験本番で詰まってしまうように何度も時間を測りながら練習し、1分間の感覚を体に覚えさせておくとうい本番焦らずにアピールできると思います。

#### ・集団討論、面接

集団討論、面接はどちらも大学配布の「部外秘」を活用しました。特別支援学校を受験する人たちが集まって練習していました。特別支援教育に関するテーマだけでなく、他校種のテーマについても練習することをおすすめします。特に大学推薦をいただいて受験する人は、他校種の人と討論することになる可能性が高いので練習に工夫が必要だと思っています。また、「部外秘」にのっているテーマに、「自分ならどう答えるか」、「人はどう答えていたか」をノートにまとめ、様々な視点からテーマについて考えられるようにしました。

集団討論においては、発言しないことはもちろん、発言しすぎることもあまり良い印象を与えないので、「グループ全体で良い討論をすること」を目標に練習するとよいと思います。そのためには肯定的な意見を出すだけでなく、否定的な意見を出すことも大切ですが、その時は改善策も一緒に話すことが大切だと思います。

### 3) 1次試験本番 筆記試験 7/7(土) → 7/29(日)・集団討論、面接 7/14(土)

筆記試験が西日本豪雨のため延期され、モチベーションの維持がとても難しかったです。私は完全にやる気をなくしてしまい、ほぼ勉強しなくなってしまったので、万が一延期された場合どんな勉強をするか、どうモチベーションを維持するか考えておくのも大切だと思いました。

集団討論では、練習していたテーマとはかなり異なる「高等教育の専門性について」というテーマが出題され、心の底から焦りました。なんとか自分の専門分野である特別支援教育につなげて発言しましたが、試験官が見てわかるくらい動揺していたと思います。どんなテーマが来ても自信満々なふりをする練習も、もしかしたら大切かもしれません。

### 4) 2次試験までのこと

私は1次試験の合否が出るまで2次試験の勉強をしなかったため、一次通過が決まってから2次試験まであまり時間がなく、焦りました。1次終了後、気が抜けてしまうと思いますが、せめて個人面接の準備だけでも始めておけばよかったと後悔しました。

#### 【模擬授業】

滋賀県の特別支援学校で受験する場合、模擬授業のお題は受験者取得見込みの基礎免許から出題されます。私は小学校免許が基礎免なので、小学校の教科書、指導書を読んで各単元の重要事項を覚えめました。算数と理科からの出題が多いと聞いていたので、優先的に対策していました。また、授業の対象児童が視覚障害児、聴覚障害児、肢体不自由児、病弱児のどれかが指定されているので、それぞれの障害種に適した支援を行いながら授業を進めることとなります。質疑応答の際、相手に対してどんな配慮を行ったか聞かれるので、それを説明できるようにしておきましょう。

#### 【個人面接】

個人面接は、「部外秘」に載っている質問の答えを考え、ノートにまとめていきました。部活動やボランティア活動、アルバイトなどでの経験がいくてくるので、自分の良さをアピールできそうなエピソードをたくさん挙げておき、答えられるようにしておくのと良いと思います。また、教職実践論の先生や専攻の先生いわく、特別支援学校の面接は「第一印象や雰囲気、人柄」を重視されているそうなので、自分の話すスピードや表情を研究しました。

## 5) 2次試験本番 8/21 (火)

---

個人面接は10～15分ほどでした。面接官は3人で、皆さんとてもこやかだったので、緊張しながらも自分らしい面接ができたと思います。「部外秘」で対策していたような質問が多かったので、比較的すらすら答えられました。1問だけさっと答えを考えられず、時間をとりましたが、私が考えている間も「ゆっくりでいいですよ」と声をかけてくださって、落ち着いて考えることができました。

模擬授業本番は授業構想を考えるのに7分、教室入室・模擬授業・質疑応答で15分ほどでした。教職実践論での練習の際は、「授業の導入部や前回の復習をしてから本題に入る」、という流れで構想し練習を行っていましたが、本番で導入等を行わずいきなり本題に入るよう指示がありました。私はそこで焦ってしまい、あまりうまく授業を行うことができなかつたので、様々なパターンで想定・練習しておくことをおすすめします。

## 6) さいごに

---

最後まで読んでいただきありがとうございます。採用試験の勉強中、何度もやめたくなりましたが、一緒に頑張る友だちや応援してくれる家族、何度も指導をしてくださった先生方のおかげで合格をいただくことができました。家で勉強していてつらくなった時、大学の図書館に行くと4回生のみんなが努力している姿がいつもあり、もっと頑張ろうとやる気が出ました。また、私は友だちと息抜きをすることや、ボランティア活動、部活動、アルバイトをすることも勉強と同じくらい大切なことだと感じました。すべての経験が採用試験に生きてくると思います。

不安になったり、もう勉強したくないと思ったりすることがあると思いますが、絶対に妥協せず、悔いのないようやりきってください、応援しています！

**大津市 T.I. さん (幼児教育 専攻)**

**【はじめに】**

色が混ざって変わったことに「なんじゃこりゃー！」と言って驚く姿、少しずつ大きくなってきた野菜をじっと見つめて不思議そうにする姿、エプロンと三角巾をつけて嬉しそうにおままごとをする姿…これらは保育園でのボランティア活動の中で見られた子どもたちの姿です。私は元々子どもと関わることが大好きだったということと、中学校の授業で保育園に行ったことがきっかけで「保育士」という職に強い憧れを抱いていました。そのこともあり、専攻の友人がほとんど幼稚園でのボランティアを選択する中、私は三回生から週に一回保育園ボランティアに行き始めました。そのボランティアを通して、先生方の保育を間近で見せていただいたり、子どもたちと一緒にさまざまな遊びを楽しんだりしたことで、「私もここで働きたい」「子どもたちの成長をそばで見守り、支えたい」という思いを強く抱くようになり、これまでの「憧れ」は、「保育士になる」という目標と決意に変わっていきました。そして三回生の終わり、大津市の保育士を受験すると決め、その試験の対策を始めました。

私は大津市の街並みや人々のあたたかさに魅力を感じ、どうしてもこの環境の中で保育をしたいという思いがあったため大津市以外の市町村は受験していませんが、日程が異なっていれば複数の自治体を受験することも可能です。専願・併願のどちらにせよ、自分が受けたい市の試験はいつなのか、どのような試験内容なのか、などをできるだけ早く調べ、対策を進めていくことが大切だと思います。また、試験の申し込みも突然始まるので、「募集や〆切に気付かなくて出願できなかった」などということが起きないように、こまめに市のホームページを確認しておくことをおすすめします。

ここでは、私が内定をいただいた大津市の保育士の試験とその対策について書かせていただきます。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

**【試験の流れと内容】**

**○一次試験**

**7月15日 実技試験**

- ・リズム … 弾き歌いとダンス  
弾き歌い：とけいのうた  
ダンス：にじいろのパレード（自由に振り付けし、踊る）
- ・言語 … 読み聞かせ  
(6冊の絵本から選び、何歳児対象かを言ってから読み聞かせする)
- ・造形 … 夏祭り案内板製作

## 7月22日 筆記試験

- ・ SPI … 言語：50問 30分（対義語，長文など）  
非言語：40問 40分（推論，平均，確率，速さなど）  
※SPIは難易度は低いですが問題数が多いため、時間配分に注意
- ・ 性格検査 … 内田クレペリン検査

## ○二次試験

### 8月10日 面接

- ・ 個人面接  
なぜ大津市での採用を志望したのか  
なぜ公立保育園を志望したのか  
誰にも負けないと思うことは何か など
- ・ 専門面接  
実習では何歳児クラスに入ったか  
実習の中で自分が大切にしていたことは何か  
事例対応について（散歩に行く際、「帽子がない」と言い出した子どもへの対応）  
エントリーシート（事前に提出）の内容からの質問 など

※ 一次試験の結果が出てから二次試験までに時間がなかったため、一次試験が終わり次第結果に関わらず、面接練習を始めるのがおすすめ

※ エントリーシートの内容は自分で必ず再確認し、聞かれそうな質問をいくつか考えておくと安心

## ○三次試験

### 9月27日 面接

※もとは9月4日に実施の予定であったが、台風の影響で日程が変更となった

- ・ 個人面接  
理想の保育士像とは何か、そうなるためにどう努力できると思うか  
保護者に無理難題を言われたときにどう対応するか など
- ・ 集団面接  
保育士を志したのはなぜか  
地震が起こったときどう対応するか  
チームワークとは何だと考えているか、またそれを高めるために自分がしてきたことは何か など

※ 最初に面接時の注意事項をいくつか言われるため、聞き逃さないよう注意

※ 質問に対する前置きが長く何を問われているかがわかりにくいいため、質問内容は何なのか答える前に頭の中で整理することが大切

## 【試験対策について】

---

### ○筆記

大津市の保育士の筆記試験は SPI のみです。(幼稚園教諭の場合、専門の試験があります) そのため、筆記対策の時間はすべて SPI に費やすことができました。自分の選んだ問題集を何度も繰り返し解くのはもちろん、大学の ALC にある問題集も活用し、SPI で出題される問題形式やその解き方に慣れるようにしました。また、問題に取り組む際は必ずその所要時間を計り、一回目よりも二回目、二回目よりも三回目と、少しずつでも解くのにかかる時間を短くしていくように努めていました。本番の試験では、いかに早く正確に解くかが鍵となります。特に時間に関しては足りなくなる可能性があるため、普段から解くスピードを意識して取り組むことをおすすめします。

### ○実技

実技試験の内容は各市町村によって大きく異なります。大学配布の部外秘冊子や、「教員採用試験受験者報告書」で自分が受験する自治体の試験内容を確認するとともに、可能であれば、実際にその試験を受けた先輩から試験の詳細やその対策について聞いておくとういと思えます。大津市の保育士採用試験はこれまでに受験された先輩が多くいらっしゃったので、試験に関する情報を多く手に入れ、対策していくことができました。

また、実技の練習は同じく幼児教育職を目指す友人と一緒にするようにしていました。そうすることで楽しく練習ができることはもちろん、他の人の良いところを取り入れていくことができ、自分の力をより高められたように思います。そしてその練習の様子は映像で撮っておくようにしていたので、後で客観的に振り返り、改善すべき点を見つけることができていました。この「撮影する」というのは一人で練習するときも有効な方法です。自分が思っている以上に動きが分かりにくかったり、表情が暗かったり、視線が下を向いていたり、自分の姿を客観的に見ることで初めて気付けることは多いので、ぜひ試してみてください。

### ○面接

面接で質問される内容も、市町村それぞれに特色があります。どのようなことを問われる場合が多いのかを把握し、それに対する自分の考えをまとめておくことが大切です。私は「面接ノート」を作り、そこに想定質問に対する考えを、一分程度で話せる長さの文章で書いていました。このときは箇条書きで要点のみまとめるのではなく、一度きちんと文章にすることで不要な言葉を取り除くことができ、自分の考えをより簡潔、かつ明確に伝えられる表現へと変えていくことができたと感じています。また、この「考えを文章で簡潔にまとめる」ことの積み重ねにより、だんだんと、どのような質問に対しても一分程度で答えられるようになっていきました。試験本番、予想していない質問をされても落ち着いて簡潔に答えられるように、自分の中でまとめられている考えのレパートリーを、できるだけ多く持っておくとよいと思えます。

面接練習に関しては、友人と一緒にするのはもちろんですが、私は「自分一人でする」ということも大切にしていました。集団で練習することには、客観的にさまざまなアドバイスをしてもらえたり自分

の予期せぬ質問への対応力を知ることができたりと、多くのメリットがあります。しかし、自分が緊張してうまく答えられなかったときに、まわりが難なく答えられていた場合、必要以上に自信を失い、落ち込んでしまう…ということもあります。そのため私は、一人で練習する時間を必ずつくり、集団での練習で気付いた自分の課題とじっくり向き合い、自分自身が「大丈夫だ」と思えるまで何度も繰り返し練習するようにしていました。またその練習の際、鏡を手に持って自分の表情を見たりボイスレコーダーに録音して話し方を確認したりし、自分の姿が他者からどう見られ、声がどう届いているのかを捉えながら行うようにしました。そのように集団での練習と一人での練習を繰り返したことで、自信をもって試験に臨むことができたように思います。

## 【おわりに】

---

私が採用試験全体を通して思ったことは、「保育現場でボランティアをさせていただいてよかった」ということです。実際に子どもたちとたくさん関わっていたことで、弾き歌いや読み聞かせの実技試験の際には、大好きな子どもたちが目の前にいると思って、笑顔でやりきることができましたし、面接でもボランティアでの具体的なエピソードを入れつつ自分の思いを伝えることができました。また、先生方の子どもたちへの関わり方や保護者対応を見て学んでいたおかげで、面接で不意に事例対応や緊急時の対応などの「保育士としてどう判断・行動し対応することができるか（していこうと考えているか）」を問われたときも、先生方の姿を思い出し、落ち着いて答えることができたのだと思います。そして何よりも、ボランティアを通して「保育園の子どもたちが大好きだ」「私はここで働きたいんだ」という気持ちを強く抱くことができたことが、試験を乗り越えるためのモチベーションとなりました。それがあったからこそ、私は最後まで頑張ることができたのだと感じています。

だからこそ、これから幼児教育職の試験を受けようと考えている方には、ぜひ現場にボランティアに行っていただきたいと思います。そこでさまざまなものを見て、触れて、感じて、学んでいってほしいです。もちろん、困難に直面し悩むこともあるかもしれませんが、それ以上に子どもたちのすてきさ、愛おしさを感じられるはずです。そしてその経験を通して得られたことはきっと自分のこれからにつながります。

試験の対策で心が折れそうになるときもあると思います。そのようなとき、支えになるのは子どもたちが自分に向けてくれた笑顔です。「せんせー！」と言って嬉しそうに抱きついてきてくれたときのぬくもりです。途中で何度休んでもよいので、最後まで諦めずに自分の夢へと続く道を歩んでほしいと思います。みなさんの夢が叶うよう、心より応援しています。頑張ってください。

**京都府 M.A. さん (国際理解教育 専修)**

**〇 はじめに**

私は今年度、京都府と滋賀県の小学校の教員採用試験を受験し、採用をいただきました。しかし、初めから教師になろうという強い意志があったわけではなく、就職活動も視野に置いて、企業の合同説明会や1 day インターンに参加したこともありました。今思うとそれらの体験は、じっくり自己分析する機会にもなっていたのだと思います。それを経た上で「やはり教師になりたい」と思い、その後は本格的に企業就活に取り組むことはありませんでしたが、話し方の講座を受けたり、グループディスカッションをしたりなど、結果的に教採につながる経験にもなりました。その後、企業就活はきっぱりと辞め、三回生の3月頃から本格的に教採の勉強を始めました。

**〇 大学生活のこと**

京都府には、京都府教育委員会の主催する「教師力養成講座」というプログラムがあり、私はまず、その講座に入るための試験に挑戦しました。三回生の11月26日に小論文試験、12月11日に面接試験があり、少し対策をして臨んだつもりでしたが結果は不合格でした。この挫折で自分の未熟さを知り、本気で取り組まないと教員採用試験には合格できないと痛感したので、例え合格できなくても受験する価値はあると思います。これは、大学推薦を受けようとするのも、自分の実力や立ち位置を確認するという上で同様だと思います。

大学生活では、部活動やスクールサポーター活動（3回生の一年間、京都府の公立小学校）に励みました。三回生の教育実習では附属小学校に行ったので、スクールサポーターで公立の小学校の子どもたちの様子を知ることも良い経験になりました。私は、一度にいくつものことに熱を注げないタイプなので四回生になってからはスクサポをやめましたが、実際に教育現場をたくさん見ることは、将来の実践力につながると思います。教採前6月に行った幼稚園副免実習では子どもたちに癒されながらも、思いがけず自分の長所を発見することもありました。どこに自分を知る機会が隠されているかわからないものですね。

**〇 併願について**

単純に「教員になれるチャンスは二回あった方が良い」と思い、京都府と滋賀県を併願しました。しかしこれは、思っていた以上にハードでした。実際に併願をして感じたメリットとデメリットです。

- 【メリット】**
- ・チャンスが二回ある。(場数をふめる)
  - ・たくさんの仲間と試験対策をし、いろいろな考えに触れることができる。
  - ・各自治体の教育方針を比較し、特徴を知ることができる。

- 【デメリット】**
- ・試験が一日置きにあたりするため、試験に追われることになる。
  - ・対策量が二倍。

## Q. 一次試験対策について

併願のため対策量が多いので、優先順位をつけて効率的に勉強するように意識していました。筆記対策は、教職教養から始めました。京都府教採は大学推薦をもらっていたので、教職教養と一般教養は免除でしたが、個人面接で教育法規の知識や考えを聞かれるので、やはり対策は必要です。はじめに過去問題集で出題傾向を見て、過去に出題されている分野をチェックし、それを中心に勉強しました。また、参考書はいろいろなものに手を出すと不安になるので、一つの問題集で間違えたところを何回か解き直して頭に入れていました。小論文に関しては、はじめは書き方がわからないと思うので、図書館にある雑誌『教員養成セミナー』（時事通信社）を参考にするのがおすすめです。また、教職実践論の先生に添削していただいたり、友達と見せ合って意見を出し合ったりしながら、何度も書く訓練をつみ、時間内に書ききれるようになりました。

面接対策は、教職実践論で定期的に行っていました。はじめは全く自信がなく、質問にも十分に答えられませんでした。話す事が苦手であれば、とにかく不安に思うかもしれませんが、教職実践論の先生に自分の良さを引き出していただいたり、友達から学んだりして、逃げずに練習することで力がついてくると思います。普段は京都府教採を受ける仲間と練習することが多かったのですが、試験の直前は、午前中は京都府の個人面接の対策、午後は滋賀県の集団討論の対策など、時間を区切って準備をしていました。

## Q. 一次試験

### 【京都府】

6月30日 筆記（\*一般教養、\*教職教養、小学校全科、小論文）\*は大学推薦のため免除

7月16日 個人面接

個人面接の面接官は二人。求められる京都府の教員像や5つの力などは頻出なので要チェックです。面接は毎年傾向があるので、先に面接の終わった友達から情報を聞くなど共有し合うべきです。

### 【滋賀県】

7月14日 集団面接、集団討論

7月29日 筆記（一般教養、教職教養、小学校全科、小論文）…7月7日の予定が豪雨で延期

滋賀県の集団面接は6人グループで行われ、私のいたグループはそのうち4人が講師 or 教師経験者でした。初めての面接試験で緊張して受験番号を言い忘れしまい、さらに緊張したことを覚えています。講師経験者の皆さんは、話すことに具体性があり、経験がない大学生は焦るかもしれませんが、表情を柔らかくして、自分のできる精一杯のことを出し切れば大丈夫だと思います。

## Q. 二次試験対策について

小学校採用には実技が必要ですが、体育科目に課された【ハードル】、【マット】、【バスケットボール】は、大学で道具を借りて友達と一緒に練習しました。実技はある程度できれば大差ないと思います。京都、滋賀共に個人面接の配点が高いので、そこに重きを置き、メンバーを変えながら一日に何度も練習しました。面接官役も交代で行い、面接後お互いにアドバイスし合ったり、自分用に録音しておき、後で復習したりなど、分析と反省を繰り返すことで自信をつけていきました。また、他大学に通う友達

とも連絡をとり、一緒に集団討論や個人面接の練習をすることで、自分の視点を増やしました。一次試験で面接試験の評価が高かった友達とは積極的に交流を図り、魅力やコツを盗んだり、私自身も日常から明るく笑顔でいることを心掛けたり等、常に面接モードを ON にして過ごしていました。

模擬授業に関しては、京都府教採は事前にテーマがわかり、実践論の先生や友達に見てもらいながら授業案を練ることができるので、安心して試験に臨むことができます。一方で滋賀県は希望教科の選択しかできず、対策範囲が広いので、私は1. 2年生のみが対象となる生活科を選択しました。併願により対策に費やせる時間に限りがあるため、ともに併願していた友達と過去間を見ながら模擬授業をし合い、対策部分を共有したので、対策時間は半分に短縮することができました。滋賀県の特別演技に関しては、大学の講座で雰囲気をつかんでおけば本番も大丈夫です。

## Q. 二次試験について

### 【京都府】

8月16日 実技試験（バスケットボール、ミニハードル、マット運動）

8月22日 個人面接、集団討論、模擬授業

模擬授業と集団討論は、5. 6人のグループで行われました。模擬授業では、他の受験者が児童役となり、試験官はその様子を教室の後ろで見ている形でした。模擬授業で児童役をすることで受験者同士のコミュニケーションが生まれ、少し和やかな雰囲気になるため、集団討論をスムーズに行うことができると思います。

### 【滋賀県】

8月20日 実技試験（水泳 50m）

8月24日 個人面接、模擬授業、音楽実技（リコーダー、歌）、特活（かぐや姫）

実技の水泳では、私自身が久しぶりの水泳だったために溺れそうになり、練習しておけば良かったと後悔したので、泳げる方も一度は練習してから試験に挑んだ方がいいと思います。

個人面接、模擬授業、音楽実技、特活は一日で行い、待ち時間も長いため、体力と気力が必要でした。どの順番で試験を行うかは人によって異なるので、何から始まってもいいように心の準備をしておくことが大切です。また、個人面接では併願の有無を聞かれたため、事前にしっかり答えについて考えを固めておくことが必要だと思います。

## Q. おわりに

大学の図書館で部活の友達と並んで勉強したり、実践論の先生に常に励まされていたり、一緒に受ける仲間と高め合ったり、部活動で体を動かしながら仲間とのいつも通りの会話を楽しんだり等、たくさんの人に支えられながら勉強できたことが、私が教採を頑張れた大きな理由だと思います。

勉強方法は人それぞれだと思います。周りを見て焦ることばかりかもしれませんが、自分スタイルを信じて前向きにやり切ってください。

拙い文章でしたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。この体験記が少しでも皆さんのお役に立てば幸いです。皆さんの健闘を祈っています。

## 合格体験記 【中学（社会科）】

京都府 Y.M. さん （社会教育 専修）

### 1) はじめに

私は京都府中学校社会科を「教師力養成講座」修了者の推薦枠で受験し、採用の内定を頂きました。入学当初は正直なところ「絶対教員になる！」という強い意志は持ってはいませんでした。しかし大学生活を過ごす中で、一緒に学ぶ友人や尊敬する先輩、先生たちの姿を見るうちに、自分も「教員になりたい」と思うようになりました。

推薦を用いての合格ですので、小論文・専門科目・面接を中心に準備に取り組んでいきました。特に面接は配点が大きく、私が大の苦手になっていた試験でしたので、かなりの対策をしていきました。

また社会科の専門教養は、地・歴・公・民すべての分野から出題されます。そこで、自分が高校で選択していなかった科目の勉強にも力を入れました。社会科以外に、理科で受験する方々にも、この「分野の広さ」という面で同じような境遇の方がおられると思います。この体験記をとおして、受験自治体が違う人にも、推薦が決まっていなくても、何かしらのご参考になれば幸いです。

### 2) 地域・校種・職種などの選択について

3回生の教育実習を終えて、志望を中学校の社会科に決めました。目指す自治体に関しては、京都府の「教師力養成講座」合格を機に決定しました。また、私は第2希望で小学校を志望し、2次試験で実技試験も受験しました。

「教師力養成講座」では2～5月の期間に週1回の講義と20日以上演習校での実地体験ができます。採用試験の勉強をする期間と重なっているときは、この講座に時間を取られるのは事実ですが、それを補って余りあるくらい大きな経験ができますし、一般教養と教職教養が免除された推薦枠での受験ができるようになります。

### 3) 試験までのこと

私が採用試験の勉強を始めたのは、「教師力養成講座」の試験を含めると3回生の10月からでした。週に1回ほどのペースで小論文を書いて、ボランティア先の先生に添削してもらったり、面接の指導を受けたりしていました。2月の「教師力養成講座」が始まると、演習校へ実習に行きつつ、採用試験の勉強を本格的に進めていました。

### 4) 1次試験本番

京都府の1次試験は、以下の要領で行いました。

免除されていない小論・専門科目・面接の対策や本番気をつけることについて書いていきます

### **筆記試験**

- ①日時：平成 30 年 6 月 30 日（土）
- ②会場：京都府立京都すばる高等学校
- ③内容：「小論文」、「専門試験」

### **面接試験**

- ①日時：平成 30 年 7 月 14 日（土）
- ②会場：京都府立洛東高等学校
- ③内容：「集団面接」

## **<小論文>**

小論文に関しては書いたものを他者に見せて、添削してもらいました。また、友人の書いた小論文を見ることで、そこから良い点を取り入れたり、自分とは違った教育活動についての記述を参考にすることができました。「教育論作文」では、具体的な教育活動について記述していきます。友人の小論文はもちろん、面接練習時に他者から出た教育活動に関する考えやキーワードも、ここに活かすことができました。自分の考えや経験だけで取り組むのではなく、同じ道を目指している仲間目に向けて、より幅広い視野を身につけられたと思います。

## **<専門試験>**

専門科目について、まず最初は過去問分析を行いました。教員採用試験は自治体によって出題傾向がかなり違いますので、自分の受ける自治体の過去問を解き、傾向を掴んだうえで学習内容を絞り、採用試験の勉強を進めました。

京都府では「大問の 1 問目に地図と絡めた問題が出てくる」ということや、難易度レベルとして、「中学レベルと高校レベルが混ざった問題がでる」、という傾向を掴んだうえで勉強しました。自分なりの工夫として、高校レベルの課題を中心にしつつ、地図帳と絡めて勉強を進めました。

また、社会科の専門試験では、高校で自分が選択していない科目の勉強が必要になります。私は日本史を高校のときに選択していなかったので、それを重点的に勉強しました。具体的な勉強方法として、高校レベルの参考書を使って問題を解いたり、苦手な箇所は自分なりにまとめたりしていました。また、ゼミの先生に勧められた「日本史の授業案を実際に作ってみる」というのもやっていました。当たり前のことですが、授業を作るには自分が内容を理解しないとできないので、知識の定着には有効であったと思います。

試験の 1 か月くらい前からは、過去問を中心にもう一度これまでやって来たものを解き直しました。大学 ALC の 1 階には少し古い過去問や他府県の問題もあるので、自分の受験するところだけに限らず様々な問題を解き、苦手なところを補っていきました。

## <集団面接>

4回生目前の春休みくらいから、友人と一緒に面接の練習を開始しました。練習をしていない時は大学が作った「部外秘資料」や、これまで京都府採用試験で出題された内容を中心に、ノートに想定回答を書き出していきました。私はこの対策ノートには、「答えのキーワードになること」を書き出すようにしていました。答えを文章で書いておいた場合、面接のときに「丸覚えで答えている」という印象にとられてしまう可能性があります。また、キーワードを出しておく、自分なりの考えの軸ができると思います。例えば「どんな教師になりたいか？」に対して、「褒める」「自己肯定感伸ばす」などのキーワードを考えておいて、「いじめに対してどうするか？」のような質問に対しては、「未然防止」＝「自己肯定感持たせる」など、考えに「自分の軸」を持っておくと、それらを応用・汎用して様々な質問に答えられますし、一貫性のある答えを出すことができると思います。

また、面接に関しては京都府の受験者だけでなく、滋賀県の受験者とも練習をしました。滋賀県教採の1次試験には集団討論があるので私もその練習に参加し、様々な校種の人と積極的に練習しました。この経験からは、自分以外の他者の教育に対する考え方を学んだり、人と話す姿勢を吸収したりできました。

集団面接に関しては、他の受験者を気にせず自信を持って、大きな声ではっきり話すことが重要です。話し方や雰囲気だけでも、得点は変わってくると思います。

## 5) 2次試験までのこと

1次試験が終わると、「専門試験」や「小論文」の勉強から解放され、かなり気が抜けていました。むしろ2次試験の内容は1次試験に比べると勉強する量は減ってきましたが、友人と一緒に何とか細く長く続けることができました。

また、私は第2希望で小学校を選択していたため、実技試験がありました。これには出願してから気づき、少し焦っていました。皆さんも出願される際には気を付けてください。個人的に、1次試験が終わり次第、ピアノの練習は行うようにしていました。

## 6) 2次試験本番

### 小学校実技

- ①日時：平成30年8月14日（火）
- ②会場：京都府立洛北高等学校
- ③内容：体育（必須）、音楽・図工の選択

### 面接試験

- ①日時：平成30年8月20日（月）
- ②会場：京都外国語大学 1号館
- ③内容：個人面接、教育実践力テスト（集団討論と模擬授業）

## <小学校実技>

体育で課された実技は【ハードル走】、【マット運動】、【バスケットボール】の3種目でした。これらに関しては友人と学校で練習していました。また、体育系の部活動に入っている人にコツを聞くなどしていました。特に【マット運動】は、自分の体がどのように動いているのかを友人に見てもらうことが有効であったと思います。

もうひとつは音楽を選択し、【ピアノの弾き語り】と【バイエル】を練習していました。ピアノは1回生の春学期以来、触っていなかったもので、1次試験が終わり次第練習していました。

## <個人面接>

1次試験同様に友人と練習したり、対策用ノートの内容を考えたりしていました。2次試験の面接は質問の量が多くなるうえに、専門的な内容も聞かれます。過去には教育法規の内容が聞かれることもあったので、過去問等で出題された内容に関しては全て調べて、自分なりに説明できるように考えていました。

## <教育実践力テスト>

模擬授業は様々な友人に生徒役として授業を受けてもらい、感想をいただきました。京都府ではすべき模擬授業の内容が先に伝えられていますので、1つの内容の「導入」に絞って授業を考え、実践していました。また、試験本番には生徒役受験者とのやり取りもありますので、生徒たちとの対応も重要視されていると考えられます。自分の発問に対してされた生徒の答えへの対応に関しても、よく対策しておく必要があります。私は、とにかく「明るく、元気に授業を進める」ことを意識しました。生徒が間違えた答えを言っても、笑顔で「惜しい！」などのコメントをするようにしました。

また京都府の試験では、集団討論内で、自分が行った模擬授業について1分間話す時間がありますので、導入の構築意図や、導入の後にどのように授業を進めるのか、明確なイメージを持つておく必要があります。

集団討論は、とにかく友人と一緒に練習しました。滋賀県教採受験の人は1次試験で集団面接に関してはもう終わっていますので、京都府と京都市受験者の人たちと練習しました。今までの小論や面接で考えた「自分の教育に対する考え」を軸に、他の受験者と絡めながら進めていけばいいと思います。

本番で重要なことは面接同様に「自信を持って臨む」ことだと思います。あとは練習でしたことや反省したことを漏れなく活かすといいと思います。

## 7) さいごに

私の教員採用試験対策は、専門試験の勉強までもゼミの先生の助言で授業を作るなど、周囲の方々に助けられ、行ってきました。特に面接や集団討論では志高い友人の、教育に対する思い、考えを吸収できました。滋賀大学教育学部の環境に育てられ、内定をいただくことができたと思っています。

後輩の皆さんもこの恵まれた環境で日々励んでおられると思います。どうぞ自信を持って、採用試験に臨んでください。

## 合格体験記 【公務員】

### 大阪府警察 S.K. さん (体育 専修)

#### 【はじめに】

私は中学校からバスケットボールをしており、体育が得意であったことから、大学受験では自分の能力を活かすことができるのではないかと、滋賀大学の体育教育コースの受験を決めました。そして将来、自分がどのような職業に就きたいかは大学生活の中で見つけようと考えていました。大学では、教職に関する授業を受けたり、教師を目指す友達と過ごしたりする中で、「教師になろう」と考えたこともありましたが、しかし、「教育学部に来たから教師しかない」、「周りが教師志望だから教師になる」、という思いが自分の中にあるように感じ、教師は自分が本当になりたい職業ではないな、と考え直すようになりました。そこで、もともと体力に自信があったことや、これまで部活動で培った忍耐力を活かすことのできる仕事はないかと考えたときに、警察官という職業に興味を持ちました。それから、警察について何も知らなかった私は、警察の業務説明会に行き、女性の警察官の方が聞かせてくださった話がとても印象に残り、警察官を目指すことを決めました。

今回は、私が内定をいただいた大阪府警察について書いてまいります。

#### 【就活の流れ】

##### <3 年生>

- 11月・・・大阪府警の業務説明会に行く  
予備校に通い始める
- 3月・・・警察官模試、警視庁模試を浮ける

##### <4 年生>

- 5月・・・大阪府警の一次試験を受ける（筆記試験、エントリーシート、論作文）→合格
- 6月・・・大阪府警の二次試験を受ける（体力試験、個人面接、適性試験）
- 8月・・・大阪府警最終合格

#### 【筆記試験】

公務員試験では様々な分野の問題が出ます。都道府県によって出題される分野が違うこともあるので志望する自治体のホームページなどでチェックしておくといいです。ちなみに警視庁の採用試験では試験においてすべての分野から出題してくるので、警視庁の問題を解くことが他の都道府県の対策にもなると思います。特に「数的処理」という分野は出題数が多く、この分野の正答率が筆記試験の合否を分けるともいわれていますから、合格を目指すには「数的処理」に重点を置いて勉強をするべきです。

公務員試験は「満点を取る試験ではない」（予備校の先生が言っていました）ので、本番は自分が「難しい」と感じる問題があったら一旦飛ばして、確実に解ける問題を解いて点を取っていくのが大切です。

## 【エントリーシート】

---

大阪府警は一次試験でエントリーシートを書きます。内容としては、設定された題目が5つほどあり、それについて1時間でそれぞれ200字程度書く…というものです。題目は、気になる最近のニュースについて、志望動機…などさまざまです。これは記述した内容よりも、各題目に対して適切に答えられているかを見ていると聞きました。つまり、そこで問われていないことを余計に書く必要はありません。また、このエントリーシートは二次試験の面接において面接官が持っており、これをもとに質問をしてくることもあるので自分の書いた内容を忘れないようにしてください。

## 【論作文】

---

論作文の試験は1時間で1000字程度書きます。論述課題はその場で発表されます。課題は年によって違いますが、例年、受験者の「志望動機」や「理想の警察官像」を問うものが多いようです。今年は「あなたの理想とする警察官像を挙げ、それを踏まえてあなたが警察官採用担当者であったらどのようにして受験者を増やすか」というものでした。

論作文はその場で考えて、時間内にある程度の文章量を書かなければいけないので、理想の警察官像や志望動機、またそれらにまつわるエピソード（部活動やアルバイトの話など）を、ある程度事前に考えておいた方が良いでしょう。

## 【体力試験】

---

体力試験も都道府県によって行われる種目や基準が違うので、各自治体のホームページなどで確認してください。警察の体力試験では、そこまで無茶なことをさせられるということはありません。基礎体力の検査だと思ってもらって大丈夫です。その分、周りともそんなに差がつくような試験ではないので、「できて当然」の雰囲気がありました。

ちなみに今年度課されたのは、「上体起こし」、「腕立て伏せ」、「反復横飛び」、「握力」、「バーピーテスト」でした。他の多くの自治体は「シャトルラン」を課してることがありますが、大阪府警はありません。準備運動の代わりとして「行進」をさせられますが、これが意外としんどかったです。体力試験が不安な人は早めに準備をしておいた方が良いでしょう。私は大学の部活動を引退して半年以上経っていたので、自主的にランニングや筋トレをして対策しました。

体力試験と並行して、身体に大きなケガや傷がないかをチェックされます。特に気をつけておくべきなのはピアスです。おそらく、耳にピアスを開けた跡がある人は試験官に聞かれると思います。警察官になりたい人はピアスを開けないでおくか、跡が残らないようにしてください。ケガや手術の跡がある人についても試験官に聞かれると思いますが、体力試験や今後の勤務中に支障がないことを伝えれば大丈夫です。

## 【面接試験】

---

面接は二次試験の中で最も配点が高いものです。この「面接」で、最終の合否がほぼ決まるのだらうと思います。

面接は3対1で行われました。志望動機は必ず聞かれると思うので、自信を持って話せるようにしておいてください。面接は緊迫した空気でしたが、問い詰められるような質問はなかったように感じます。

私は「テンポの良い面接」を意識しました。質問されたらできるだけすばやく、簡潔に答える… というかんじです。質問について答えられずに止まってしまうと、自分自身も焦るだろうし、面接の雰囲気も悪くなってしまいます。また、答えがダラダラと長くても、面接官側に「的確に要点を答えられない」という印象を持たれると思います。もし、答えられないような質問をされたときは、考え込むのではなく素直に「わかりません」「的確に答えられません」などと言って次の質問に進み、そちらをきちんと答えるのも一つの手だと思います。面接の時間にも限りがあるので、できるだけ面接官に多くの質問をしてもらい、自分自身のことを知ってもらおうと良いと思います。

## 【さいごに】

---

警察官の試験は5月から始まるころもあり、他の公務員試験と比べると早い時期から行われます。そして、始まると一瞬で終わってしまうので気を抜かないようにしてください。

私は周りの環境に流されて就活をしてしまいそうになりましたが、そのようにしなくてよかったなど思っています。どのような分野の就活であっても、「本当になりたい」という思いや職業への憧れの気持ちがないと、自分自身のモチベーションを保つことが難しいです。

就活において辛いときに頑張れるのは、「受かった時の自分」や「働いている自分の姿」を想像することです。後輩の皆さんも、それぞれが「本当になりたい職業」を選んで就職活動をしてほしいと思います。

## 甲賀市役所 M.M. さん (音楽教育 専修)

### 【はじめに】

私は甲賀市役所の上級行政職で内定を頂きました。就職を考えるにあたり公務員を選択したきっかけとして、私が大学2回生の頃から参加していた、甲賀市の生活支援課が行なっている学習支援のボランティアが挙げられます。そこでは、母子・父子家庭の子や、家庭環境が複雑な子、貧困家庭の子などを対象に無償で晩ごはんを提供したり、勉強を一緒にしたりして、「居場所づくり」と「学習支援」を目的に活動していました。教育実習やスクールサポーターでも、家庭環境が複雑で友達に手を上げてしまったり、授業を妨害してしまったりする子を見てきました。今では閉鎖的になってしまった子育てを、もっとオープンなものにし、子どもがいきいきと過ごせるような地域を作れるのは学校現場ではなく、行政だと考えたので、私が暮らし、ボランティアを行っていた甲賀市の職員となることを希望しました。

### 【就活の流れ】

#### (3回生)

- 10月 公務員試験について調べ、情報を集める。少しずつ勉強を始める。
- 11月 大学で行われるガイダンス（公務員ガイダンスや集団討論の練習など）に参加する。
- 1月 本格的に筆記（一般知能）の勉強をする。

#### (4回生)

- 4月 一般知能の勉強は続けつつ、一般知識の勉強も始める。
- 5月 公務員模試（自宅受験）を4回受ける。
- 6月 甲賀市役所の募集要項が発表されるので、確認し、申込書を提出する。
- 7月 一次試験（筆記試験）を受ける。→合格
- 8月 履歴書と面接シートを提出する。  
二次試験（小論文）の練習をし、『公務員ジャーナル』で添削をしてもらう。  
面接とグループディスカッションの練習を友達とする。  
甲賀市が行なっている取り組みを調べ、まとめる。
- 9月 二次試験（小論文、面接、集団討論）を受ける。→合格、内定

私は他との併願をせずに、甲賀市役所のみを受けました。公務員を受けている他の就職希望者たちの多くは、受験の場慣れのために県庁や国立大学法人なども受けていましたが、私の現在住んでいるところは交通の便があまりよくないので、公共交通機関を使って受験しに行くと、とても時間がかかります。「移動時間がもったいない」と思ったので、併願する代わりにたくさん勉強して試験に挑みました。「ここで落ちたら働く場所がない！」と思うと気合が入って、勉強も捗りました。

## 【具体的な試験内容】

### ■甲賀市役所一次試験

- ・一般知能：数的推理、判断推理、資料解釈、文章理解
- ・一般知識：人文科学（日本史、世界史、地理、）  
自然科学（物理、化学、生物、地学、数学）  
社会科学（政治、経済、社会）  
時事問題

### ■甲賀市役所二次試験

- ・小論文：1つの事例を読んで、問題把握をし、課題解決を考える。（700字程度）
- ・集団討論：あらかじめ配布されているテーマをもとに意見交換し、結論を発表する。  
（6名、20分。試験官5名）
- ・個人面接：20分、面接官5名

## 【筆記試験の勉強】

「数的推理」は公務員試験の中で最も重要な科目と言ってもいいほどのものです。たとえ数学が苦手でも、解法パターンは決まっているので、早くから取り組み、解き方を覚えることが大切です。同様に「判断推理」も重要な科目なので、「数的推理」と同時進行で準備を進めていました。「資料解釈」と「文章理解」は数をこなして、慣れるまで解いていました。

「一般知識」は「一般知能」の勉強がある程度進んできてから始めても遅くないと思います。センター試験と同じような問題なので、一通り勉強したら、苦手なところを中心に組み込んで、点数を稼げるようにしました。

「時事問題」は思っているよりも問題数が多いので、新聞やニュース番組で補うよりは時事問題の参考書を買って、勉強の合間に読んだほうが良いと思います。

筆記試験は時間勝負なので、慣れてきたら時間を計りながら解いたり、たくさん問題に触れたりして、短時間で解く練習をすることが合格への鍵だと思います。

## 【面接の勉強】

面接試験は自分の思いを面接官に直接伝えられるチャンスでもあります。「なぜこの自治体で働きたいのか」、「どんな経験からこの職を選んだのか」など、自分の考えや思いを明確にし、簡潔に相手に伝えることが求められます。志望動機以外にも、趣味やストレスの発散方法、大学での生活についても聞かれるので、自分自身の日常生活についても見直してまとめておくと良いと思います。

甲賀市役所の採用試験は、一次試験の合格通知と共に面接カードが配布され、事前に市役所に提出したので、面接カードに記入するときに、自分がなにを思っているのかを図式化し、考えをまとめました。私は緊張すると頭が真っ白になるので、考えていることを紙にたくさん書き出し、友達に面接練習を頼んで練習することで緊張していても答えられるようになりました。

教員採用試験に挑戦する人たちにもコツを聞くと、たくさん教えてくれます。

## 【試験の情報】

---

公務員試験は情報戦でもあります。私は予備校に通わず、独学で公務員試験を受けました。試験の傾向や頻出問題、教科の配分などを知っておくと有利で、当日も自信を持って挑むことができます。予備校に通っていただければそのような情報はすぐに耳に入りますが、独学だと自分から探さないと得ることが出来ません。そこで、私が実践していた方法を2つ紹介します。

まず1つ目は、SNSの活用です。今ではTwitterやInstagramなどのSNSで情報を発信している自治体が多いです。観光情報などが多く発信されているので、その自治体の特色をつかむのによいと思います。また、Twitterでは全ての公務員試験の情報を教えてくれるものや、試験までのカウントダウンをしているものもあるので、チェックしておくとう便利です。勉強の合間、無意識にスマホを見てしまっても、「勉強しなければ！」となってやる気が出ました。

2つ目は動画投稿サイトでの講義動画の活用です。YouTubeなどでは、科目名を入力すると講義動画が出てくることがあります。苦手なところや解説ではわかりにくいところを勉強したいときに役立ちます。また、参考書を買ったら講義動画も見られるものもあるので、活用すれば理解が深まります。

## 【気をつけるべきこと】

---

公務員試験は私が受けた年から方式が新しくなっています。芸術や文学、文章理解の古文が試験範囲の中からはなくなりました。このような情報は、公務員試験専用の雑誌などを読んでよく調べないとわからない情報です。また、私が受けたときは、科目の順番と科目の配分が模試とは全然違いました。予想外のことが起こっても慌てずに、いつも解いていた順番で解けば大丈夫だったので、当日何が起こっても落ち着いて行動することが大切だと思います。

## 【さいごに】

---

教育学部で公務員試験を受ける人数は、教員採用試験を受ける人数よりも圧倒的に少ないです。また、大学からの支援も少ないので心細いときもあると思います。しかし、自分を信じて最後まで諦めなければ、きっと良い結果が待っていると思います。

また、自分に自信を持つには、大学生活でのボランティア活動や、一生懸命打ち込んだことが材料になります。教育学部だから行政は不利なんてことはなく、むしろ教育実習などで現場を見てきたことが強みになります。「ここで働きたい！」という強い思いがあれば伝わると思うので、最後まで諦めず、頑張ってください。

体調管理も忘れずに！

## 全日本空輸株式会社 (ANA) I.T. さん (中等教育コース 家庭専攻)

### 1) はじめに

---

#### ■【教育学部で就職活動をするにあたって】

皆さんもご存じのように、私たちの学ぶ大学は教育学部であるため、生徒のほとんどが教員採用試験を受けます。教員採用試験への学校のサポートは非常に手厚く、周りの友人は一致団結して頑張っていました。このように一般企業への就職活動をする人が少ない状況の中活動し、全日本空輸株式会社(ANA)の客室乗務員として内定をいただくことができました。ここでは、私が実際に経験してみて感じたことを書いていきます。皆さんの参考になれば幸いです。

#### ■【大学生活】

大学での日々は家庭専攻の授業や教育実習をはじめ、英語の学業、サークル、アルバイト、遊び、短期留学…と、あらゆる事に全力を注いだ毎日でした。今思えばすごく欲張りに思えるくらいタイトなスケジュールでしたが、それら全てが私にとって「いい経験」になりました。皆さんにも学生生活では、自分のやってみたい、という気持ちを叶えてあげて欲しいです。当時の私は忙しい中、限られた時間をいかに有効に使うか、という目の前のことに精一杯でしたが、気が付けば、その中で自然と身についたタイムマネジメントの術や行動力が、就職活動に役立ったように感じます。

### 2) 情報収集、説明会参加、エントリー

---

#### ■【情報収集】

就活情報は主に新聞、ネット、説明会、同じ就活仲間から得ていました。「マイナビ」や「リクナビ」などのサイトから気になる企業を見つけ、更に深く知りたいと思った企業に関しては、その企業のホームページや説明会、関連ニュースなどをチェックしていました。また先述したように大学内には就職活動をする人がほとんどいなかったため、キャリアセンターや説明会でできた「就活仲間」の存在がとてもありがたかったです。その仲間からいろいろな情報を教えてもらい、助けてもらっていました。

就職活動では「情報」が非常に重要になってくるため、自分から能動的に行動することが大切です。ただ、就活に関する掲示板サイトなどの情報には、根拠の曖昧で不確かであるなど様々なものがあり、不安になってしまったので、私は途中から見ませんでした。もちろん役に立つ部分もありますが、そういった信憑性が確かでない情報とは上手く付き合っていきたいです。

## ■【説明会について】

活用した説明会は主に「マイナビ」や「リクナビ」が開催する合同企業説明会と、各企業が開催する企業説明会の2つです。

合同説明会は、あらゆる業界から何百もの企業が出展しています。初めて合同説明会に参加した際、あまりの企業の数の多さと、就活生の数の多さに圧倒されたのを覚えています。合同説明会には、「気になる業界を見つけに行く・多くの企業を知る」という気持ちで参加し、広い視野でまわってみることをおすすめします。対して企業説明会は、「その企業について深く知る」という気持ちで臨んでください。同じ業界でも企業によってカラーや制度が全然違います。企業説明会は参加する度に新たな発見や情報が得られたので、志望度の高い企業の説明会には、可能な限り何度も参加していました。さらには、そこへ参加することが自分のモチベーションアップにもなっていました。

説明会は、社員の方や前年の内定者、つまり今、入社一年目である先輩方と、すごく近い距離で話せる企業が多いです。様々な社員の方と交流することで、その企業の細かいことが分かるだけでなく、社風も肌で感じられるようになってきます。また、前年内定者の先輩方は歳が近いだけ話しやすいだけでなく、就活の記憶も新しいので、とても親身に相談にのっていただきました。私はその先輩方から就職活動をする上での有効な対策本や心構えを教えてもらっていたので、皆さんにもぜひ積極的に交流してほしいです。

## ■【エントリーについて】

実際に私が関わった数字を以下にまとめます。

プレエントリー：30社くらい（航空・商社・メーカー・金融）

エントリー：15社くらい（航空・商社・メーカー・金融）

内定：5社（客室乗務員2社・事務員2社・エリア総合職1社）

## ■【エントリーシート】

エントリーシートは「自分の分身」という意識をもって作成していました。「とりあえず書類審査を通るように」、という安易な気持ちで書いてしまうと、後でとても困ると思います。なぜなら書類審査後の面接は、エントリーシートに書いてあることを基に進められていくからです。そのためエントリーシート作成にはとても時間をかけました。エントリーシートは企業の方に読んでいただくということが大前提ですから、読みやすさも大切です。書いた後には家族や就活仲間の目を通して、客観的な意見をもらいました。これは自分では気づかない視点での振り返りにつながり、より良いエントリーシートとして完成させるためにとっても有効です。

また、紙面上の言葉であっても、気持ちは伝わります。今やネットを見ればエントリーシートの記入例なんて山ほどあります。しかし人が書いたものをそのまま使ってもなぜか違和感があるし、なにより「気持ち」が入りません。やはり自分が持つ想い、企業への熱い想いは、自分で考えて、「自分の言葉で」伝えてください。それが今後就職活動を乗り越える時、自分の心強い武器となってくれます。自分と向き合って書いたエントリーシートにはすごく愛着が湧きますし、面接でなにを聞かれてもすらすらと答

えられます。私自身、就職活動ではエントリーシートを書く時期が一番悩み、大変でしたが、この作業は本当に大切だと思います。

### 3) 試験までのこと

---

#### ■【役立った授業・経験】

就職活動が終わってから、後輩にも「これは取り組むべき、ということはありませんか？」とよく聞かれますが（私自身も先輩に聞いていたので、この気持ちはとてもよくわかります）、振り返ってみても、周りの就活を終えた人を見ていても、「これをすれば必ず就職に役に立つ」、というものはないような気がします。逆説的になりますが、自分が全力で取り組んだことであれば、全て役に立ちます。実際、私自身も周りが企業インターンシップに参加している時期に教育実習があり、内心すごく焦りました。しかし目の前の教育実習に精一杯取り組んだ経験は、結果として面接でとても役に立ちました。だから、安心して目の前のことに全力で取り組んでください。その過程こそが、結果として、役に立ちます。

具体例としては、TOEIC や SPI を勉強することで、得することはあっても損することはありません。「やり切った」といえる就職活動にするためにも、時間を見つけて勉強することをおすすめします。

#### ■【お薦めの参考書など】

TOEIC に関しては『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』（朝日新聞出版 ¥961）という単語帳を持ち歩いて隙間時間に見ていました。語彙力が上がるだけでグッと解きやすくなるので単語数は大切です。SPI に関しては『史上最強 SPI&テストセンター』（ナツメ社 ¥1,404）を繰り返し解いていました。先輩に教えてもらった本ですが、私も後輩にはこの本をおすすめしています。

### 4) 内定までの流れ

---

#### ■【スケジュール】

- 2 回生 3 月 フィリピンのセブ島へ1か月の短期留学をし、その経験から就職活動することを決める。
- 3 回生 4 月 TOEIC の勉強を始める。
  - 10 月 教育実習終了。業界研究・企業研究・自己分析を始める。
  - 12 月 インターン・SPI の勉強を始める。
  - 3 月 プレエントリー開始・合同説明会・企業説明会・エントリーシート作成
- 4 回生 4 月 エントリー・SPI 受ける
  - 5 月 いくつかの企業で面接が始まる
  - 6 月上旬 一次面接
  - 6 月中旬 二次面接
  - 6 月下旬 最終面接・内定

## ■【1次合格から2次までの過ごし方、心構え】

航空会社は受ける人の数がすごく多いので、面接が何日かに分かれ、結果が出るまでにも1週間くらいかかります。(他の業界は、即日や翌日に電話連絡があり、非常に短期戦な企業が多いです。)考えても仕方がないこととは分かっていますが、結果を待っている間はやはり少しそわそわしてしまいました。そういう時は、企業パンフレットをみてモチベーションを上げ、気分転換をして気を紛らわしていました。気持ちが少し落ち着いたら、自分が受かっていることを信じ、企業研究や自己分析を深める。2次面接に向けてコツコツと取り組むのみです。

## ■【特徴的なこと】

合同説明会で航空会社の説明会に参加した時、周りの受験者の熱意に圧倒されそうになってしまいました。身だしなみも背筋もピシッとしていて、全員が真剣そのものです。その熱気に、身が引き締まったのを覚えています。また、海外と関わる仕事であるため、外国語学部出身や長期留学経験者の方も実際、とても多かったです。教育学部で長期留学経験もない私は初め、すごく不安に感じましたが、企業の方は「私らしさ」をしっかりと評価してくださったので、そのことに関しては心配しなくて大丈夫かと思えます。

この「私らしさ」の評価に関する一例を挙げます。私は教育学部で家庭科を専攻しており、授業の一つに「家族関係学」というものがあります。そこでは「家族とは、実は年齢も性別も価値観も自分とは全く異なる他人の集団である。」ということ学びました。私自身、とても家族と仲が良いのですが、自分ではない、いわば「他人」である家族と、なぜ良好な関係を築けているのか、と考えた時「家族だから仲が良いのではなく、家族に対して愛情をもって接しているから仲が良いのだ」ということに気が付きました。社会に出て働き始めると、それこそ年齢も価値観も自分とは驚くほど異なる人と会うことになりませんが、「この人が自分の家族だったら」、という心をまず持ち、接していきたい、という旨を面接で伝えました。その際に面接官の方が「あなたが学校で学んだことはとても大切なことですね、他にも家庭科で学んだと言っていた衣食住、これもきっと仕事にいきるし、私はとても興味があります。」という言葉で満面の笑みで言ってくださいました。私自身、就職活動をしていて「教育学部出身」というのは私のコンプレックスのひとつでしたが、それが逆に面接官の方の目には新鮮に、魅力として映ったのかもしれない。

また、さらに特徴的な事として(これは体感的なものではありますが、)他の業界では「自分の強み」など個人の能力の強さが求められる印象が強かったですが、航空会社でもそれはもちろんのこと、加えて、周りの人への気遣いや日頃の考え方など、「人となり」も重視されているような印象もありました。

## ■【気をつけるべきこと】

やはり一番は「身だしなみ」です。もちろん、「見た目が全て」ではありませんが第一印象は非常に重要です。私自身は、清潔感があるよう心がけました。シャツにはアイロンをきっちりかけ、ヘアワックスや替えのストッキングを持ち歩いていました。また、就職活動時はよく歩くため、靴がすぐに汚れてしまいます。帰ったら靴を磨くことを習慣にしていました。

身だしなみ以外に関して言えば、何事も余裕をもって行動することです。面接会場は知らない場所が多く迷子になることもあったので、特に時間には余裕を持って行動してほしいと思います。

## 5) さいごに

---

### ■【全体をふり返って】

就職活動を終えた今だから言えることかもしれませんが、私自身は、就職活動はとても楽しかったです。周りが教員採用試験を受ける中で就職活動をするのは、もちろんものすごく不安だったし、面接で言いたいことが言えなくて、帰ってから大泣きした日もありました。それでも「楽しかった」と思えるのは周りの人のおかげです。支えてくれた家族や先生、就活でできた友達、みんなが助けてくれました。教育学部の友人達も応援してくれ、ダンスサークルの仲間は、最終面接前日に東京のホテルに一人でいる私にビデオ通話をしてくれました。就職活動は、周りの人のありがたさを再認識した時期でもありました。

また就職活動をしたことで、今まで知らなかった社会の裏側を知ることができ、社会を見る目が変わりました。とても近い距離で多くの企業のことを学べるのは、就活生の特権だと思います。この経験はかけがえのないものです。いろいろあったけれど、少しは成長できたのではないかと…と思います。

### ■【今後への抱負、夢、希望】

客室乗務職は、私にとってすごく遠い存在のイメージだったので、正直なところ、今もあまり実感がありません。直近の目標としては、これから始まる訓練をしっかりと乗り越えることです。無事に訓練を乗り越えることができたなら、「余韻が残る空間」をつくれる人になりたいと思います。人にとって「快適な空間」は、物品などのハード面ももちろんですが、そこに居る人間たちの「相手を想う心」からも作られると考えています。働く仲間やお客様を家族のように大切に想う心を持ち、一緒にいると楽しい・安心すると思ってもらえる人でありたい、と思っています。また、選考の時は自分が外国語学部ではなく、教育学部家庭専攻である、というのがとてもコンプレックスでしたが…そこで学んだことを新たな視点として生かせれば、と今は思っています。

### ■【後輩たちにメッセージ】

私が一番伝えたいことは「就活の内定＝自分の価値」と考えないでください、ということです。これは先輩から私がいただいた教えですが、私はこの教えにとっても助けられたので、後輩である皆さんにもお伝えします。就活には明確な答えがありません。「なぜ受かったのか」も、「なぜダメだったのか」もわかりません。だからこそ心の畏、です。うまくいかない時、「自分は必要とされていない…」という考えになりがちです。でも本当はそうではなくて、「ご縁がなかっただけ、以上、マル」なのです。自分に合った企業は必ずあります。(ある程度落ち込んだら、)切り替えて、自分に合う企業と出会う可能性を広げるため、行動してください。

どんな時も自分は自分の味方でいてあげれば、大丈夫です。

頑張ってください、応援しています。

**株式会社 平和堂**      **Y.A.さん**      (環境教育専攻)

**1) はじめに**

「就職活動」という言葉を聞いて感じることは人それぞれです。スーツを纏って県外を訪れ、毎日エントリーシートを書いたり面接の練習をしたり… そういうイメージからか、辛く不安な印象を持つ人が多いですが、意外とそんなことはありません。就活中に辛いと感じてしまう人の多くには「良い会社に入りたい」という思いが強い場合が多いと思います。しかし中には、誰かが「この会社が良いよ！」とってくれたからその会社を目指す…といった人もいます。このような就活生は必ず失敗する、と私は思います。仮に内定をもらって入社できたとしても、すぐに辞めてしまう可能性が高いです。

では、「良い会社」とはなんのでしょうか？名前が有名な会社、と答える人もいれば、お給料が高くて安定した休みが取れる会社、と答える人もいますし、昇給制度があって福利厚生がしっかりしている会社、と答える人もいます。このように「良い会社」のイメージは様々で、「良い会社」の概念は人によって違います。

自分自身が「休みを確実に取れる仕事」を軸に考えていた場合、当然、「休みを惜しんででもお金を多く稼げる仕事」を軸に選んでいる友達とは、調べるべき会社の条件が違ってきます。このように、「自分がどんな会社で働きたいのか」を明確にした上で就職活動を開始できると、スムーズに就職活動は進むのではないかと思います。

**■志望動機、職業としての選択理由、**

私は、就活を始める前に自己分析を行い、「自分はどんな人間でどんな仕事に向いているのか」、また「どんな志や考え方を持っているのか」を細かく分析し、自分と向き合いました。私はもともと、できるだけ相手のことを考えた上で、自分にできることは何かないか、と考えるような性格なので、分析の結果と性格を考慮して、就活の軸を「相手を思う気持ちが強い会社」としました。

その軸を意識して、様々な企業の「企業理念」を読み込んだり、実際に合同説明会で人事の方の人柄をみたり、インターン制度の利用で会社の雰囲気を見たりして、自分なりに考えた結果「株式会社 平和堂」の企業理念や職場の雰囲気に惚れ込み、採用していただけるよう全力で頑張りました。

**■大学生活の例**

大学生活では、それぞれ所属しているゼミや部活動などで予定が埋まりがちになると思います。就活を開始する時期になったら、予め絶対に参加しなければならない予定を把握しておき、就活のスケジュールをどんどん詰め込んでいけると良いと思います。ただ「将来」に関わる大切な就職活動ではありますが、ゼミや部活動というのも、学校にいるからこそできる（今しかできない活動）ということをお忘れずに、「全てを楽しむ」気持ちで臨めると、就活も上手くいくと思います。

## 2) 情報収集、説明会参加、エントリー (方法、着目点、注意、反省など)

### ■情報収集

「就活は情報戦」とよく耳にするのではないのでしょうか。本当にその通りで、1つの情報でも、知っているのと知らないとは全く違います。いくら動き始める前に自分で就活の軸を定めているとはいえ、千万無量の企業から「自分に合う」と思える会社を見つけるのは大変です。そのため、僕の場合は、様々な業種・企業が参加する合同説明会に参加し、実際に人事の方と話をして自分の目で会社を判断していました。またその他にも、説明会などで仲良くなった就活仲間に相手の就活状況などを聞いて、色々な就活スタイルを吸収していました。その際は必ずメモに記入し、友達との情報共有も欠かさずに行っていました。

説明会やインターンなどにできるだけ参加し、様々な人から生の声を聞くことが一番手っ取り早いですが、上手く時間が取れない場合は、滋賀大学の図書室などにある就活対策本で、就活についての基礎や大枠を、大まかに理解しておくのも大切だと思います。

身近な人との関りにも意識を巡らし、自分の行きたい業界の相談を行うことも重要です。とにかく些細なことからもいいので、行動に移していける力を早い段階で発揮させることが、情報収集を上手くするコツなのかな、と、就活を終えた今は感じます。

### ■説明会について.....(回数、業種、職種...など)

説明会とは、1つの開催地に様々な会社がそれぞれのブースを設置して一斉におこなう『合同説明会』や、実際にその会社の会議室などで行う説明会などがあります。

合同説明会の利点は、様々な業界や企業が参加するため、それぞれの良し悪しを比較しやすい、という点が挙げられます。同じ業界の企業でも、個々に企業理念や経営理念なども違いますし、会社の雰囲気も違います。人事の方の雰囲気や話し方や仕草、パワーポイントの使い方などから、その会社の全てを把握するのは厳しいのですが、合同説明会であれば、それが比較しやすいのです。

会社で行う説明会の利点は、その会社全体の雰囲気が全体的に把握できることです。自分がこの環境で働くかもしれないとイメージすることで、その会社についての興味関心も変わってくると思います。

僕の場合は合同説明会に2回(12月に1回、1月に1回)、企業の説明会には6~7社ほど参加しました。ただ、内定をいただき、それを受諾した「株式会社 平和堂」以外は、自分には雰囲気が合わないような印象がありました。実際のところ、他社には人事の方々から溢れる負のオーラなどを感じ取ってしまい、社名や条件等の面でどれだけ魅力のあった会社でもエントリーせず、辞退した会社が多かったです。このように、最初は「行きたい」と強く思っていた場所でもエントリーせずに終わることもあります。皆さんも、実際にそこで働く人との関りから、生の声を聞き、自分で判断できるよう願っています。

### ■エントリーについて.....(プレエントリー:何社)(エントリー:何社)(内定:何社...および職種)...など

エントリーは「マイナビ」や「リクナビ」などの就活サイトから行うことが多かったです。また、大学で開催してくださる「あさがくナビ」さんの就活セミナーなども参考になりました。

参考: 【あさがくナビ】 <https://www.gakujo.ne.jp/2019/index.aspx?p0=99>

私は、プレエントリーは合計で 100 社ほどしました。就活サイトで検索すれば、自分の検索履歴から関連深い会社を紹介してもらえて、なおかつそれらに一括プレエントリーが可能でした。本エントリーは 10 社で、選考中に内定をいただいたため、途中で辞退する会社が 7 社ありました。最終的に内定は合計で 3 つちょうどだし、内訳は 1 社が小売業で、残り 2 社が商社でした。

#### ■エントリーシート.....記述ポイント、気をつけるべきこと、気をつけたこと...など.....

エントリーシートは、会社によって書き方が全く違います。あらかじめ決められた内容を書く会社もあれば、白紙の紙を渡され、「自分らしく表現してください」と指示してくる会社もあります。前者では、素直な気持ちで、最初に立てた自分自身の「就活の軸」を頼りに記述していけば良いと思います。自分を飾ったり、無理に大きく見せようとしたりすると、入社してからが大変になると僕は思います。後者...「白紙に自分らしく表現する」の場合、とてつもなく難しく感じるとは思いますが、逆に言えばそれは「正解がない」ということです。あなたが書く、世界に一枚だけのエントリーシートに必ずなるはずです。そのエントリーシートに会社側が魅力を感じれば、確実に興味を持ってもらえます。自己理解をしっかり行い、素敵な自己紹介を、センス溢れる表現で書いてみましょう。具体例としては、絵を書いたりカラフルに色塗りしたり、写真や仕掛けを施すのも面白く、相手の興味を惹けるとは思います。

### 3) 試験までのこと

#### ■大学生活の様子.....エピソード、大学外での生活.....

私は、3回生の教育実習が終わった 9 月から、教師になるか就職に力を入れるか葛藤していました。結局悩んだまま 12 月に企業の合同説明会に行き、少しずつ就活の準備をしていました。自己分析が済んだ年末あたりに、自分には就職が適していると判断し、1 月から就活に本腰を入れました。

大学外では、他の大学に通う友達に就活の動き方を聞いたり、合同説明会で出会った就活生と連絡を取ったりしていました。就活生の多くが不安を抱えていますが、お互いにその不安を共有して、それでも前向きに頑張ろうという話をすると、誰とでも仲良くなれると思うので、説明会などでの人との出会いは大切にしてほしいなと思います。

#### ■重視した授業・経験、結果的に役立った授業・経験.....

どの授業も、必ず自分の役に立ちます。正直僕は勉強ができませんし、簡単な問題でも解くのが遅いです。しかし大学の授業というのは、そういう勉学的な授業もありますが、ほとんどが各々歩んできた人生とリンクさせることができる講義であると、4 年間受講して感じました。要は自分自身の捉え方であり、その見方ひとつで、何もかもポジティブにもネガティブにも変わる、ということです。

先輩方に「この講義って面白いですか？」と話を聞くようなとき、「あんまりだった」など、マイナスな表現をされる方が僕の周りには多かったです。しかしその先輩にとっては「あんまり」だとしても、自分だったら違うのではないかと、一度は自分の心で考えることをオススメします。「はじめに」にも書きましたが、一人一人の考え方や物事の捉え方は、すべて異なります。その人にとって必要ない情報でも、自分にとっては有益な情報かもしれません。

皆さんはいま大学で多額の授業料を払い、貴重な講義を受けています。苦手な授業は誰にでもあるとは思いますが、些細なことでも、たったの一つだけでも「受けて良かったな」という点を見つけてみましょう。そうすることで、「そう感じ取れる目」を養うことができます。その「目」は、就活で必ず役に立ちますし、きっと就活に限らず、この先の将来にも恩恵を受けるのではないかと、僕は思っています。

## ■お薦めの活動、課外活動、趣味、参考書など

---

興味が出たことはなんでも挑戦してみるといいと、僕は思います。僕は毎年「やりたいこと 30 選」を決めて実行に移しています。これは、「常に意識してなければできないこと」、「今すぐにでもできること」、「誰かと一緒じゃなければできないもの」、など、種類は様々です。僕はこれを 2 回生のときからはじめましたが、それによって少しずつ行動力がつき、考え方も前向きに変化していったように自分でも感じます。

参考書では『就活必修！1 週間でできる自己分析』（さくら舎 ¥1,404）という坪田まり子さんの本を参考に、自己分析をしました。1 日に 1 つという無理なく続けられる量で取り組みやすかったですし、これを 7 日間真剣に行ったからこそ、就活の軸をしっかりと決めることができたのだと思います。

以上、僕の「お薦めの方法」を 2 つ挙げさせていただきましたが、「そうなんだ」で終わらず、実際にやってみることを強くオススメします。実体験は、本物の自分の意見となります。就活では、他人の意見や感想を自分のもののように扱う就活生が数多くいます。そんな就活生は、面接官に深く掘り下げられた時、言っていることの辻褄が合わなくなり落選、というケースが多いと思います。しかし、語る内容が自分の実体験であれば、当時の思い出をさかのぼり、正直に、自分の感想やそこから得た学びなどを答えることができるという強みにもなります。何より、チャレンジの数が人間としての魅力を、より一層厚くしてくれると思います。

## 4) 内定までの流れ

### ■スケジュール

---

実際に僕が経てきたスケジュールをまとめます。

- 9 月 教育実習終了
- 10 月 大学で行われた就活セミナーに参加
- 11 月 教師か就活で葛藤
- 12 月 合同説明会に参加・インターンシップの申し込み
- 1 月 合同説明会・就活マナーセミナー・インターン 1 社
- 2 月 合同説明会・インターンシップ・会社説明会 4 社
- 3 月 就活解禁・選考スタート・インターン特典で 3 社の 1 次選考免除
- 4 月 平和堂 内々定 獲得

## ■具体的な試験内容、その対策

試験では「SPI」「面接」「集団面接」「集団討論」と様々でした。この他にも、自分の特技を PR するためにパワーポイントを使って面接を行う会社もあるようですが、僕自身は受けていないので、事例紹介のみにいたします。

### 【SPI】

説明会の後に行うパターンと、テストセンターという採用側から指定された施設で行うパターンがあります。また、性格検査や適性検査も「SPI」と表記されることがあるので、その会社について詳しく調べておくか、何が来ても大丈夫なように準備万端で臨むようにしておきましょう。

早めに勉強を始めるに越したことはないですが、忙しい時期なのもわかるので、「毎日 10 問だけ 10 分以内に解く」などのように目標を設定し、SPI に慣れていくことが大切だと思います。実際それに向き合ってみると思いのほか焦りますし、緊張で解ける問題も解けないなんてこともあります。また早く効率よく解くことが求められますので、1 日予定を開けて詰め込む、というよりは、毎日少しずつ、自分で時間を測ってやる方がいいと思います。

### 【面接】

面接はエントリーシートを元に質問されることが多かったです。ただ、自己分析を行い「就活の軸」さえぶれていなければ、どんな質問が来ても対応できました。前日などに質問を予想しておくのは大切ですが、その答えを覚えようとすれば、むしろ返答がぎこちなくなる可能性がうまれます。大まかに面接の内容を予想し、必ず入れるべきキーワードをいくつか決めておけば、自然に答えられるのではないかと思います。

### 【集団面接】

集団面接では、左右順番に聞かれることもあれば、何人か集中的に聞かれることも、不規則にまた質問内容も全員違うパターンもあります。面接は、相手に自分の魅力を振りまき、相手から興味を持ってもらえるようにするものですが、そのように予想しにくい聞かれ方の場合もあるため、様々な企業の面接に行って慣れておくとうまいと思います。

### 【集団討論】

集団討論は、一つの題目に対してグループ（5～6人）全体で自由に話し合い結論を出すという選考です。司会や書記、タイムキーパーなども率先して行えると、グループの話し合いは円滑に進むと思います。集団討論では、メンバーは初めて会う人達、さらに周りは企業の面接官という緊張状態で始まるのですが、ここでも素直に自分の意見を言うことが大切です。ただ、簡潔に伝えることは忘れないでほしいです。

討論の時間は決められているため、意見をだらだらと言うと確実に時間が足りません。また、自分の発言が論点をずらしてしまうのではないかと、という点にも注意しましょう。そのために必要なのは、相手の話に耳を傾ける「傾聴力」です。

相手の発言を聞く力、その発言の問題点に気づく力、場の空気を読んで意見を絞る力、時間を測って状況を把握する力、司会として結論をまとめるまでの流れを作る力… 集団討論と簡単に言っても、様々な役割役職で成り立っています。自分は何に向いているのか、今までの自分を思い返して幾つか絞っておきましょう。

## ■ 1次合格から2次までの過ごし方、心構え

人それぞれの過ごし方があります。僕の場合は、自分のその間の予定を把握しておくこと、次の選考で課される内容を抑えておき、そのための勉強や、その会社について知るという時間に費やしました。身構えすぎずに、早めに次の内容と予定を把握しておけば気持ちに余裕がうまれるため、オススメです。

## ■ 特徴的なこと

僕の就活スケジュールを見ると、かなり早い段階で内々定を獲得しています。周りの就活生も、早い人はもっと早くに獲得しています。ここで焦ってしまう人が多いですが、これもまた人それぞれで、目指す業界や企業が違います。周りを見て焦るよりも、素直に「おめでとう」と言えるだけの余裕を持っておきましょう。そのためには、早めの行動が大切だと思います。

## 7) さいごに

### ■ 全体をふり返って

就職活動を振り返ると、かなり詰め込んだスケジュールで、早めに就活を終了していたことに気づきました。これができたのも、早めに2~3か月先の予定を組んでいたからだと思います。

部活動やゼミの活動で予想されるイベントなどは、あらかじめ日程を聞いて把握しておくことなど、他者とコミュニケーションをとる大切さも学びました。

### ■ 今後への抱負、夢、希望

平成最後にして、新たに社会人となる大切な年です。社会人として自分以外の方々（会社の方やお客様、家族や友達）を考えながら仕事に取り組めるよう、意識したいです。また自分自身の人間としての魅力を深めるために、これからも「毎年のやりたいこと」を明確にし、挑戦し続けていきたいです。

### ■ 後輩たちに向けてメッセージ

僕の拙い「就活体験記」を読んでもくださりありがとうございます。僕が実践してきたことをできる限り書いたつもりではありますが、文字での伝え方は難しいもので、最後まで読んでくださったにも関わらず、欲しかった情報が得られなかった場合は申し訳ないです。それでも、皆さんにはぜひ「前向きな気持ち」を持って就職活動を行ってほしいと思い書かせていただきました。

滋賀大学教育学部では、一般企業就活の道を選ぶ生徒は少ないです。そのため、孤独に感じることも多々あると思います。しかしあなたは「就活を選んだ」というだけです。一人で悩んで進めない時は、周囲の人に頼るということも忘れずに日々を送ってほしいと思います。